

ご注文の際、プライス・コードもご記入下さい。

プライス・コード{a ¥ 1 6 9 0/A ¥ 1 8 9 0/B ¥ 2 0 9 0/C ¥ 2 2 5 0/D ¥ 2 4 9 0}

(表示価格は税抜き) 別途消費税が加算されます

www.tambourine-japan.com email: song@tambourine-japan.com

注文方法サイト: <http://www.oct-net.ne.jp/tambouri/order.htm>

Fairport(P15) England(P24)

[DVD/UK] NTSC all regions

※国内製 DVDプレーヤーで再生可能

- *ALLAN TAYLOR: The Endless Highway ¥2680
(DVD&ブルーレイディスクの二枚組セット。ジャック・ケルアックの本をポケットに入れ、旅するフォーク・シンガーの道を歩み始めた Allan Taylor の自叙伝的ドキュメンタリー・フィルム。Dick Gaughan とのデュエット映像など、彼のフォーク・シンガーとしての歩みと音楽の背景がよく理解出来る内容。映像が彼の唄の世界のように美しい。約 1 時間 10 分。2009 作。Stockfish)
- *ALBERT LEE&HOGAN'S HEROES ¥1500
: Live At Stazione Birra, Rome
(Albert Lee&Hogan's Heroes のローマでの約 2 時間の白熱のライヴ。70 年代の Albert Lee のスタイル{カントリー・ロック}そのまま。全 25 曲。112 分。2009 作。Heroic)
- *ALBERT LEE&HOGAN'S HEROES: Live In Paris ¥1500
(2003 年パリでの約 2 時間のライヴ。どっぷり 70 年代スタイルのカントリー・ロック ~ 南部ロックのアメリカン・ロックの世界。全 22 曲。102 分。Heroic)
- *JOE COCKER: In Concert A
(81 年の白熱のコンサート・ライヴ。“Feelin' Alright”, “A Whiter Shade Of Pale”, “Watching The River Flow”, “Delta Lady”, “You Are So Beautiful”, “With A Little Help From My Friends”他 Joe Cocker の十八番アルバム・レートの 13 曲。スウィーな南部ロックも最高。2003 作。トイ Alpha Centauri)
- *MEIC STEVENS: An Evening With Meic Stevens C
(2007 年 7 月、ロンドンでのライヴ。デビュー時は「ウェルズ」のホブ・テイランと呼ばれたこともあった Meic だが、今は齢を重ねた Randy Newman のようないぶし銀の味わいを醸し出している。SSW の中の SSW を実感させる全 15 曲収録のライヴ映像だ。2008 作。Sunbeam)
- *ERIC CLAPTON: Music In Review A
(Yardbirds や Cream 時代そしてソロになってからの希少映像を挟みながら Jack Bruce や “Cream” の著者 Chris Welch 等が E. Clapton を語るドキュメンタリー-DVD。“Layra”, “I Shot The Sheriff”, “Sunshine Of Your Love”, “Crossroads”, “It's Too late”, “Wonderful Tonight” and more. 61 分。Sandbeach)
- *VAN MORRISON: Under Review 1964-1974 A
(様々なライヴ映像を含む貴重映像と写真を挟みながら彼の音楽変遷をアルバムごとに詳細に紹介するドキュメンタリー-DVD。112 分。2008 作。Sexy Intellectual)
- *LINDISFARNE: Classic Rock Legends B

(Lindisfarne の白熱ライブ。“Lady Eleanor”, “Meet Me On The Corner”, “Roll On That Day”, “Everything Changes” 等等など 11 曲。80 分。2001 作。Carlton International Media)

[LP/UK, IRELAND]

- *TIR NA NOG: The Dark Dance ¥2790
(250 枚限定 LP 盤。Sonny Condell と Leo O' Kelly のアイリッシュ・フォーク・デュオ“Tír na nÓg”のスタジオ録音盤としては、1973 年の“Strong In The Sun”以来の四枚目となる新作。Sonny Condell の 2013 年のソロ“Swallows And Farms”などを通して、今もなお“Tír na nÓg”流の音楽を創作していることを知っているから、そうも驚かなかったが、1970 年代の夢想的ブリティッシュ・フォークの香りが充満した二人の唄とギター・サウンドは、あの時代の“Tír na nÓg”の音楽の空気感に信じられないほど充ちていて、ファンは極楽必至。この空気感を 100%出すには、CD じゃ無理。音に質感のある LP じゃないとダメという訳で、LP 発売は大正解。1949 年 7 月 1 日生まれ [Sonny Condell] のお年寄りが創った音楽とは思えない常若の唄とサウンドだが、そうした音楽を現実に創り出し得た二人に大きな拍手を。音楽は常若だが、滋味豊かなのは、齢を重ねた二人の内面からにじみ出てきたものだろう。LP をステレオ・サウンドでお楽しみ下さい。Tír na nÓg は不滅。2017 作。Mega Dodo)
↓“Tír na nÓg”の Sonny Condell の 2013 年のソロ CD

- *SONNY CONDELL: Swallows And Farms A
(Tir Na nOg [ティル・ナ・ノグ] の Sonny Condell のギター弾き語りの 2013 年作。唄も緑の楽園に住む吟遊詩人っぽくて、70 年代の夢見るブリティッシュ・フォーク・シンガーの花畑～田園の夢世界ムードにほんわかと包まれていて、信じられないほど夢見心地な音楽。彼の気ままに吹く風のようなふわふわな唄とクリスタルな輝きを放つ彼の独特なアコースティック・ギターのサウンドが織り成す最高に極楽な SSW 音楽の世界だ。2013 作。Irish World Music)

[CD/UK, IRELAND]

(FOLK, SSW, ROCK)

- *ALISON O' DONNELL: Climb Sheer The Fields Of Peace B
(Mellow Candle の Alison O' Donnell の新作。Mellow Candle 時代の音楽、その美意識と通底する音楽を齢を重ねた Alison がひとり、今の目線で創作したのが本作という印象。Alison の頭の中は独自の「夢のようなドラマ」を創作すること。そのための助っ人に選ばれたのが、アイルランド人ギター&電子楽器奏者で SSW でもある Dave Colohan。Dave は Alison が描く唄の世界に寄り添い、必要最小限の微細で美しい音響を創作し、音で Alison の頭にある「夢のようなドラマ」を彩る。驚くのは Alison の細やかな表情を見せるヴォーカルの妙。Dave が創作する異世界的な「音」とともに、不思議な世界へと誘われる気分になる。何もかもが、集中力があって、細やかでマジカル。10 月 5 日で 65 歳になる Alison のまろやかな渾

身作。2017 作。Mega Dodo)

*ALISON O' DONNELL: Hey Hey Hippy Witch A
(Mellow Candle の Alison の 2009 年作。12 トラック +1 ボーナス・トラックの全 13 トラック。全曲自作曲。Alison のヴォーカルは終始優美で穏やか。ことさらにフォーク・ロックの衣装で、或いはケルトの衣装で着飾ることはなしに、ただ一人の SSW として、自分の唄を誠実にうたっていて、それだけで滋味豊か。2009 作。Freeworld)

*ALISON O' DONNELL & ISABEL NI CHUIREAIN: Mise Agus Ise A
(その Alison とアコ、キーボード奏者の Isabel とによる故郷アイルランドのルーツに根ざしつつ、ロックやジャズの要素も融合させた秀逸作。元 Mellow Candle の David Williams {ギター、フィドル、マンドリン} が参加。2006 作。Osmosys)

*WIZZ JONES, PETE BERRYMAN & SIMEON JONES
: Come What May B
(おそらく W. Jones {ヴォーカル、ギター} が P Berryman {ヴォーカル、ギター} と S. Jones {サクソ、フルート、ヴォーカル} を誘って制作された「真夏の夜の夢」のような W. Jones 流ブリティッシュ・フォーク。ボーナス曲三曲を含めた全 14 曲の内、P Berryman がヴォーカルの主導権を取るの三曲のみ。しかし P Berryman の唄はすこぶる穏やかで、W. Jones の浮遊する音楽にとけ込んで聞こえる。その内の一曲 {タイトル曲で娘への手紙を唄にした曲} は SSW の Anne Sumner とのデュエットで、泣けるほど心優しい曲。聞き物ばかりだが、W. Jones 色に彩られた Bert Jansch 作 "Moonshine" の曲解説には「Simeon Jones が 9 歳のときに Bert Jansch から木製フルートをプレゼントされたのがきっかけで、フルート人生が始まった。Simeon の息子の Alfie Jones が Bert の曲を演奏しているのを聴いて、Alfie を説得してギターを弾いてもらった」と。W. Jones の "Right Now" を初めて聴いてから 45 年。今なおあの頃味わった音楽と似た感動が味わえるとは！ Riverboat)

*JENNIFER CROOK: Carnforth Station A
(ハープ奏者で SSW の Jennifer Crook の三枚目。旅の思い出など、Jennifer が紡ぎ出す音楽は自然な抑揚があって、詩情豊か。声自体が美しく魅力的だが、うたう詩のリズムから発生するメロディに彼女の情感が乗り移った印象で、夢の中で唄の旅をする気分。Jennifer {ヴォーカル、ハープ 他} に Eliza Carthy Band の Beth Porter {チェロ、フィドル、ハーモニウム・ヴォーカル}、Jackie Oates Band の Mike Cosgrave {ギター、アコ、ハーモニウム・ヴォーカル} のトリオ編成。ピカー。2014 作。Long Tale)

*JACK HARRIS: The Wide Afternoon B
(よくありそうな名前の SSW の、よくありそうなヴォーカルの唄にすっかり釘付け。そのよくありそうなヴォーカルだが、Jack Harris なる SSW の唄への没入度と唄の表現力は並外れているし、自身の卓越したギターを要にした伴奏は、Jack の心動かす唄と連動して、豊かな表現力で魅せる。SSW アルバムとして完璧。ほめちぎっても足りない。Jack は 2005 年に 19 歳のときに米国テキサスで開かれている Kerrville Folk Festival に出場し、英国人初の優

- 勝者に輝いている。2017 作。Rootbeat)
- *GOAT ROPER RODEO BAND: Cosmic Country Blue B
 (このウエールズの三人組の Gram Parsons 風カントリー・ロックの何と胸キュンなこと！メンバーは Tomas Davies {ダブブルベース、ヴォーカル}, Jim Davies {リード・ギター、ヴォーカル}, Sam Roberts {リズム・ギター、ヴォーカル}。誰がリード・ヴォーカルかわからないが、G. Parsons のヴォーカルの甘み濃くして、フレンドリーな親しみやすさを濃くしたような心ほんわかになる、個人的に理想のカントリー・ロック。2016 作。Aveline)
- *DAVID HUGHES: I Can Explain A
 (Jacqui McShee と Gerry Conway がほぼ全曲でバックイングの本作は彼独特な自己陶酔的暗鬱さと 70 年代風ブリティッシュ・フォークの陰影とが交差する中で、いつもながらの彼独特な世界が生み出されている。ブリティッシュ・フォークの名盤。w. Bert Jansch, Helen Watson, Chris While, Julie Matthews, Martin Brunnsden。2004 作。Folkcorp)
- *LYLE McGUINNESS BAND: Acting On Impulse D
 (台風で屋根が飛んだときの被害盤。ジャケット裏面に水に濡れた痕跡以外は新品同様。1988 作。Line)
- *KIERAN HALPIN: Akoustik D
 (SSW アルバムの名盤。1992 作。Kieran Halpin)
- *HUW AND TONY WILLIAMS: Junction Twenty Six ¥2800
 (ブリティッシュ・フォークの名盤。1991 作。Steam Pie)
- *HENRY McCULLOUGH BAND: FBI Live (2007 作。Mundell Music) D
- *HENRY McCULLOUGH BLUES BAND: Belfast To Boston D
 (2001 作。Walk Away)
- *RALPH McTELL & WIZZ JONES: About Time A
 (本作は 50 年前に Ralph McTell が Wizz Jones の招待を受けて共演したのを記念して、今度は Ralph McTell が Wizz Jones を招待して実現した二人の初共演盤。二人の阿吽の息は見事で、もう何十年もデュオとして活動してきたかのように、ヴォーカル・ハーモニーも、ギター演奏も決まっている。2016 作。Leola)
- *TONY REIDY: Round Tower Blues A
 (世の中可笑しなおっさん SSW がいるもんだ。バンジョー、マンドリン、ギターを取っ替え引き替え、時に多重録音をしてうたう、この Tony のうたは何ともほっこり。Michael Hurley に似た雰囲気もあることはあるが、このおっさん Tony は物言わぬものに語りかけるように波静かで穏やかで、その眼差しは優しい。唄は飄々感はあるものの Johnny Duhan のような唄の響きだから、唄それ自体が心地よい。2015 作。Tony Reidy)
- *MICHAEL WESTON KING: Live... In Dinky Town A
 (何とも物悲しい響きのギターの弾き語りライブ。Tim Hardin の名盤“The Homecoming Concert”くらい身にしみる。2002 作。Twah!)
- *KRIS DREVER: Black Water & Live A
 (リマスター・デラックス版。二枚組。2012 作。Reveal)
- *PAUL MILLNS: Unsang Heroes B

(Paul Millns の 1997 年録音で 1998 年リリースのアルバム。1998 作。April Music))

- *MARY HAMPTON: My Mother's Children B
(Vashti Bunyan 等 1970 年代のブリティッシュ・フォークの香りのちよっと不思議な雰囲気的女性 SSW。夢想の世界をか細い、少し震える声でうたう。自身のギターやピアノを中心にした鳥のさえずりなども取り込んだサウンドで、「壊れやすさ」で完璧。2008 作。Navigator)
- *SAFFRON SUMMERFIELD: The Stonemason's Dream A
(地震で発見。英国のカントリーサイドの穏やかさが感じられる Saffron のたおやかなギター {1972 年製 Guild D35} の弾き語り。Robert Jarvis のトロンボーンがのどかさを運ぶ。アイルランドの伝統曲 "The Dawning Of The Day" のメロディを拝借した "On Raglan Road" 他全 9 曲。のほほ一ん。2002 作。Mother Earth Music)
- *HUW M: Gathering Dusk B
(ウェールズの業者のカタログを見ていて、偶然に目に留まった、まるで 70 年代の夢見る SSW のような、同じウェールズの Meic Stevens の唄にも通じるような魅力的なアルバム。彼の唄の世界は夢うつな世界。朝日の中で、夕日の中で、その心地よい時間の流れを楽しむかのような穏やかで美しい唄の数々。自身が爪弾くギターをはじめ、アコースティックなサウンドも彼の唄の色に彩られている。Bethan Reynolds とのハーモニーと共に夢の世界へ。朝、目覚める頃、夢うつなまどろみの中で聴きたい。発売年は 2011 年。Gwymon)
- *JAKE WALTON: Silver Muse B
(新曲に過去の曲を加えて新録した本作は、"The Gloaming Grey" を包んでいた英国的愁い {その愁いはケルトの神話への愛着や故郷コーンウォールへの想いに発する愁いなのだが} が、同じように感じられるアルバムとして美しく結実。Jake 自身、自分の歩みを振り返りつつ、同時に改めて自身の音楽のルーツを確認し、新たな気持ちで音楽する快さに充ちている。伴奏は Jake のギター、ダルシマー、ハーディ・ガーディと Eric Liorzou のマンドーラ、ギターの二人の演奏を軸にしている、そのアコースティックな響きが、本作の新鮮さを高めている。全 15 トラック。2015 作。Celtic Monkey)
- *LIAM MERRIMAN & EOIN O' MEACHAIR: The Birds Never Cease C
(Liam Merriman はアイルランドのウォーターフォードのヴェテラン SSW だが、近年はナッシュビルをも拠点にレコーディングと演奏活動をしていて、本作は同郷の Eoin O' Meachair {ハングォー、マンドリン、バイセル} をパートナーに迎えて、ナッシュビルで録音したもの。本作は男性 SSW タイプの音楽だが、結構胸キュンになる。Liam 自身は Christy Moore や Christie Hennessy 等のアイリッシュ・シンガーが描いてきた世界や風景を意識して制作したそうだが、聞こえてくる音楽は、夢の世界をうきうきと旅してまわるような心の自由さと優しさが感じられ、気分清々しい。野原でうたう「唄のおじさん」的な Liam の優しいうたも心惹かれるし、隠し味的に盛り込まれたアイリ

ッシュな爽やかなサウンドが、朝、野原を散歩するように気持ち良い。2015 作。Three Rivers)

*CATHERINE HOWE:Because It Would Be Beautiful B

(かつて 1970 年代、ブリティッシュ・フォーク界の歌姫だった Catherine Howe の新作。Vo Fletcher {ギター}, Ric Sanders {ヴァイオリン}, Michael Gregory {ドラムス} がバックを務めていて、Vo Fletcher のミステリアスなギターをフィーチャーした弾き語りのフォークとバンド形式のフォーク・ロックとが混在したスタイルを取っている。Catherine 様を中心に同窓会的雰囲気楽しい。2015 作。Talking Elephant)

*ALISTAIR OGILVY:July Moon C

(スコットランドの SSW として大物の器の Alstair の 2014 作。Alstair の唄は歌唱力に相応しく雄大。しかも雄大であり、かつ繊細。スコットランド風の叙情も感じられる。根っこの部分に、Runrig のようなスコットランド魂が感じられる。ゲスト:Karen Matheson。2014 作。July Moon)

*LESLEY CURTIS:Looking For The Girl A

(女性 SSW の Lesley Curtis の信じられないほど美味なアメリカなロック。エレキギター、スティールギター、トブロー、マンドリン、オルガン、ベース、ドラムス等の楽器編成のロックは、1970 年代の頃あたりの爽やかなカントリー・ロック風で、Lesley の唄は爽やかに輝いている。ある意味時代遅れのアノグなカントリーロック風サウンドだが、たつぷりと自分の好みのサウンドに充ちたサウンドの中でうたう Lesley の唄は清々しくて何とも心地よい。2015 作。Curly Lettuce Production)

*JASON STEEL:Fire Begot Ash A

(70 年代 SSW ファン、ブリティッシュ・フォーク・ファンはニンマリ一枚。ギター、或いはバンジョーを爪弾きうたう J. Steel の音楽は、Michael Hurley 風の気楽さと英国の田舎っぽさと Bert&John 風ギター等が混ざり合った心地よい音楽。最愛聴盤。Rif Mountain)

*STEVIE PALMER:Heartprint Shadow A

(イアン・マッシュューズを想起させるヴォーカルと曲によってはヘロンを想起させる牧歌&夢想フォーク・サウンドは心穏やか。夢想的で信じられないほど歌詞が詩的で心優しい唄ばかり。w. Mary MacMaster, Steven Polart, Kim Edgar, Wendy Wetherby, Allan Knox。2010 作。Greentrax)

*MARY JANE:Tacit A

(70 年代ブリティッシュ・フォークの麗しさを追い求める Mary Jane の 3 枚目はライヴ・セッション。Fairport, Steeleye, Trader Horn, Trees のフレイグアがお好みの方は必聴。“Matty Globes”そっくりな“Lady Margaret”, “She Moved thro’ the Fair”, “Blackwaterside”ほか全 13 曲。2000 作。Seventh Wave)

*THE STEPPES:Drop Of The Creature a

(アイリッシュ・アメリカ人によるフォーク・ロック・バンド。70 年代サイケ・ロックとブリティッシュ・フォークとが出会ったようなミステリアスなロック。70 年代趣味丸出し。97 作。Delerium)

*STONE ANGEL:East Of The Sun B

(Stone Angel の素晴らしい New。理想のブリティッシュ・フォーク&トラッド。
2001 作。Kissing Spell)

*VASHTI BUNYAN:Lookaftering A
(二枚目。薄型ジュエル・ケース仕様のサンプル盤。2005 年。Fat Cat)

*SUSAN McKEOWN:Belong C
(アイルランド人女性シンガーの Susan McKeown の 2014 年作。本作はこれまでのアルバムの中で異色。Maria Muldaur のようなノスタルジック・ムードの
声が裏返る唄やクラブ・風安酒場っぽい唄など、ひと味違う。大人の
女性ムードの魅惑の SSW アルバムなのだ。2014 作。East River Music)

*JOHN MARTYN:No Little Boy ¥1000
(w. Levon Helm, Gerry Conway, Spencer Cozens, Dave Gilmour,
Phil Collins, Alan Thompson, etc. 1993 作。Parmanent)

*STEVE TILSTON:The Reckoning B
(ブリティッシュ・フォーク・ギター奏者として、かつシンガーとして大活躍の
Steve の本作は全て自作作曲。気高く繊細で、かつ気品のあるギターの
響きとクリアとして穏やかな唄は愛おしいほど美味。英国フォークの名
盤。2011 作。Hubris)

*ELLIOTT MURPHY・IAIN MATTHEWS:La Terre Commune A
(異色のデュオ。それぞれのソロの持ち味とデュエットがバランスよく収められ
た友情盤。2001 作。ドイツ Blue Rose)

*LUCY WARD:Single Flame B
(若き女性 SSW の Lucy Ward は、2012 年、BBC のフォーク部門で「新人賞」に
当たる“Horizon Award”を授賞。本作は二枚目。Lucy が作る唄は独
特だ。英国の昔話、特に不気味な話や不思議な話が好きで、そんな
世界を自分で創作して唄にした感じで、音楽が彼女の世界、宇宙
として結実している。トラッド曲が二曲ある。その内の一曲「神様、私
は嵐の中で死にたくありません」[船津訳]は、June Tabor のトラッド
的世界にどきっとさせられもする。Produced by Stu Hanna。2013
作。Navigator)

*CEDARS:Little Copper Still A
(Cedars は紅一点の女性シンガーの Chantal Hill がヴォーカルの英国のル
ーツ・ロック・バンド。彼らのルーツ・ロックはかなり本醸造。Chantal のヴォーカルは
古いブルース・シンガーやホピュラー・シンガーの妖艶さを放ち、それでいて現
代のフォーク・シンガー風でもあって、熱いスライド・ギターやバンジョーの演奏
はストレートにロック化していて、熱い。ルーツの匂いがたっぶり。2013 作。
Clubhouse)

*JOE COCKER:Fire It Up ¥2690
(CD+DVDセット。DVD は PAL 方式。久し振りに聴く Joe Cocker は、この 40 年
あまり、結局南部ロックにとりつかれら音楽人生だった、ということ。
同じ釜の飯を食った仲間達の多くが、音楽的にも、実際にも第一線
から身を引いていった中で、Joe はしぶとく南部ロックを第一線で演
じてきた。アルバム・タイトルが示すように、特に本作が「熱く」演じたアル
バムなのかも知れないが、70 年代初めの Mad Dogs&Englishmen 時代と
なんら変わらぬ入魂の唄と南部フィーリング溢れるロックにすっかり骨抜
きになる。8 曲目“You Don't Know What You're Doing To Me”は
“You Are So Beautiful”を想起させるソウルフルな美しい曲。DVD は CD

- 収録曲の中から6曲のライヴが捧げる。2012作。トイソニー)
- *ALASDAIR ROBERTS: Farewell Sorrow B
 (Andy Robertsの息子でスコットランドのSSWのAlasdairの孤独感漂うやる気のないヴァーカルと伝承歌的夢物語の世界で遊ぶ独り言的唄達は何とも不思議な世界へと誘う。2003作。Rough Trade)
- *NAOMI BEDFORD: Tales From The Weeping Willow B
 (Naomiはまるで英国のEmmylou Harris。今のEmmylouではなく、70年代の。Naomiの声の響きは白人系アメリカン・ルーツ音楽の故郷のような響きなのだが、土臭さよりはむしろ優美さや夢見心地感が感じられるもの。鮮やかなアコースティック・ギターの伴奏を中心にしたサウンドも新鮮。2011作。Dusty Willow)
- *KEITH CHRISTMAS: Live At The Pump A
 (齢を重ねたヴァン・SSWのK. Christmasのギター弾き語りライヴ。全18曲。約40年の隔たりで聴くK. Christmasの唄はアメリカのヴァン・SSW達、例えばMichael MurpheyやJohn Prineのようなヴァン・SSWのギター弾き語りライヴを聴く感触。2012作。BECN)
- *JAMES GRANT: Strange Flowers C
 (Scott WalkerやJohn Martinを想わずソウルフルかつミステリアスなヴァーカルは静かに闇が迫るように圧倒的なGreatなSSWアルバム。w. Karen Matheson, Donald Shaw, James MacKintosh, etc. 2009作。Vertical)
- *DUNCAN McCRONE: Colourblind B
 (70年代からスコットランドのフォーク・シーンで活動してきたヴァン・SSW、D. McCroneのソロ。D. McCroneの本作は、総じて穏やかだが、ストーリー・テラー風フォーク・シンガー・スタイルで、内省的なテクニシャンが感じられる唄とリテンション・スタイルのブリティッシュ・フォークの香りのする牧歌的で郷愁をそそる唄が混在し、どこか懐かしい気分させられる。w. Ray Laidlow, Steve Lawrence, Chris Stout, Finlay Macdonald, etc. 2012作。Circular)
- *EDDIE MARTIN: Folk & Blues a
 (「アメリカ」で取り上げたい渾身のブルース・ハーブ {ブルース・ハーブの妙技も素晴らしい} を吹き、ギター&ホーン・ギターの弾き語りブルース・アルバム。イギリスの妖精物語“Kind Lady Moon” {男が悪魔にさらわれる物語} さえ、Eddieの手にかかるとゴトゴトのブルースに変幻する。ここまでブルースを自分のものとし、操れるブルース・シンガーはそうはいない。J. J. CaleやEric Claptonのファンにお薦め。2010作。Blue Blood)
- *LAURA MARLING: A Creature I Don't Know B
 (本作は昨年9月に発売された同名タイトルのアルバムに16トラック収録ライヴCD “Live From Yorkminster” をセットにした2枚組限定盤。Lauraの音楽性はフォーク、カントリー、ロック、ジャズ等様々な音楽性が散りばめられ、多彩だが、弾き語りを基本にしていて、ソングライティングや感性の部分で、Joni Mitchellの影響が感じられ、加えてLeonard CohenやNeil Youngを想起させる部分もあつたりで中々魅力的。プロデュースはGlyn Johnsの息子のEthan Johns。2012作。Virgin)
- *ELEANOR McEVOY: Alone B
 (アイルランドのSSWのE. McEvoyの9枚目の本作は、アコースティック・ギター、或いはピアノ、或いはエレキギター、或いはベースギターを一曲一曲持ち替え、弾き語りであつたもの。タイトル通りのEleanor独りぼっちの世界の唄ばかり)

- り。2011 作。Moscodisc)
- *JOHN SPILLANE:A Rock To Cling To C
 (欧米の SSW の中でも屈指の SSW の John Spillane の唄が始まるや、いつも John Spillane 一色。いつものことながら、うたい方は知性的で、一見穏やかで静かだが、発せられたうたそのものは熱く、言葉の力、詩の力を思い知らされる。天下一品。w. Pauline Scanlon, Donogh Hennessy, Brendan O' Sullivan, etc. 2011 作。EMI)
- *CANDICE NIGHTS:Reflections A
 (Ritchie Blackmore の奥さんの Candice の優麗な唄。すべての人が夢の中。2011 作。Minstrel Hall Music)
- *FREDDIE WHITE:Close To You B
 (一枚発見。1991 年作。EMI)
- *EMMA TRICCA:Gypsies And Red Chairs a
 (イタリア人女性シンガーによる夢想的ブリティッシュ・フォーク。Suffron Summerfield, Davey Graham 推薦。2001 作。Fairylands)
- *MASTER OF CRAFTSMEN C
 (一枚発見。Bert Jansch, Simon Nicol, Vikki Clayton, Dave Pegg, Dave Mattacks, Chris Leslie, G. Giltrap, etc. 99 作。Terra Nova)
- *GREGSON & COLLISTER:Love Is A Strange Hotel ¥2718
 (国内盤。1991 作。キング)
- *REDLANDS PALOMINO COMPANY:Don't Fade A
 (全国のカントリー・ロック・ファンに絶対のお薦め。紅一点のシンガー、Hannah Elton-Wall を擁する彼ら{もう一人のヴォーカルの Alex Elton-Wall とほぼ交互にリード・ヴォーカルを取り、ハーモニーする}のカントリー・ロックは、Kennedys くらい 70 年代米国西海岸カントリー・ロックの夢見心地な旨みをたっぷり持った胸キュンのカントリー・ロック。2011 作。Clubhouse)
- *GERRY O' BEIRNE & ROSIE SHIPLAY B
 :Yesterday I Saw The Earth Beautiful
 (元 Patrick Street で SSW で名ギター奏者の Gerry O' Beirne の本作は Rosie Shiplay なる無名の女性アイドル奏者 Rosie とのデュオ・アルバム。デリケートな感受性に富む G. O' Beirne の唄とギターは個人的に思い入れがあるが、本作でも彼らしい美しく細やかなギター演奏による心痺れる唄に惹き込まれる。2010 作。Shipwhistle)
- *CAVIL:Mares' Tails B
 (何とものどかな幸せ気分になれる唄たちだ。ヴォーカルの雰囲気が一見、Nick Drake 風だが、Nick のような神経質的な面は皆無。ジャケットの写真ではないが、麦畑に心地よく吹く風のような唄がギターやピアノやグロックenspiel などの夢のような音色に包まれてほわほわと流れる。こんな至福な唄の世界は久しぶり。申し訳ないが、コメント書くのを止めてぼーっと聴いていたくなった。2010 作。Folkwit)
- *CIARAN DORRIS:Home B
 (C. Dorris はベルファスト出身で現在スコットランドでケルト音楽ラジオの人気キャスターを務める SSW。Ciaran の唄はとても人なつっこい。アイルランドとスコットランドの二つの故郷を想う気持ちが綴られた Ciaran の唄は健やかで晴れやかで、そして感傷的。アイルランドの叙情派 SSW の Ciaran Goss に似てるだろうか？w. Shona Mooney, Calum Stewart, Stuart Duncan)

- , Gillian Duncan, Mary Kathleen Burke 他。2010 作。Greentrax)
- *KATH READE: Passionate Nature B
 (Kath Reade は Jez Lowe が主宰する Songwriter Cup の元保持者で、
 ランカシャー地方では名の知れたヴァン女性フォーク・シンガー。本作がデビュー
 作。Kath の唄は土地に根ざしたフォーク。と言ってもその土地の伝統歌
 をうたうのではなく、Kath 自身が土地の伝承や土地の人々の営み
 を自分の言葉でうたったもの。音楽性はむしろ 60 年代～70 年代の
 ブリティッシュ・フォーク/SSW っぽい。2010 作。Splid)
- *DEMOLITION SKY: Demolition Sky B
 (Richard Durrant 主宰の Airport Club で 2001 年に出会い、デュオで活
 動する Alistair Mackie と Mark Collyer の二人組のデビュー作。二人
 ともがアコースティック・ギターを快く弾き、二人がハモる唄は清々しく美し
 い。イングランドの美しい風景を描写した唄など往年の爽やかでミラクル
 ムードのブリティッシュ・フォークをホフツさせもする。Produced by Richard
 Durrant。2009 作。LongMan)
- *DAVID ROTHERAY: The Life Of Birds A
 (Beautiful South の創設メンバーの匿名義のアルバムで、曲目は David の
 自作曲或いは David と本アルバムでヴォーカルを取るシンガーとの共作曲な
 のだが、ヴォーカルを取るのは全てゲストのシンガー。そのシンガーは Eliza
 Carthy {2 曲}, Bella Hardy {3 曲}, Jim Causley {3 曲}, Kathryn
 Williams {1 曲}, Eleanor McEvoy {1 曲}, Alasdair Roberts {1 曲},
 Julie Murphy {1 曲} 等。タイトルが示すように鳥の唄が中心だが、それ
 だけでなく一曲一曲の唄がしっかりとして、心に残る唄ばかり。
 2010 作。Proper)
- *AL STEWART WITH DAVE NACHMANOFF: Uncorked B
 (A. Stewart が古くからの音楽仲間でギター奏者の D. Nachmanoff と
 2009 年に行った米国ツアーでのライブ。Al Stewart は今が最も旬かも。
 全 13 曲。2010 作。Wallaby Trails)
- *MEIC STEVENS: Love Songs B
 (ウェールズの Bob Dylan と言われた Meic が 18 歳だった 1959 年から 2009
 年の間に作られた英語の「ラブ・ソング」集。全 13 曲。大半が未発表曲。
 いやはや初心回帰と言うか、Meic の唄は唄に誠実で優しい。本作は
 その昔、Bob Dylan に紹介してくれたという Fiona Fleming という
 女性に捧げられてる。2010 作。Sain)
- *MICHAEL WESTON KING
 : I Didn't Raise My Boy To Be A Soldier C
 (Bob Dylan 作の "I Pity The Poor Immigrant" と "Simple Songs Of
 Freedom" や Phil Ochs 作の "Cops Of The World" と "Is There
 Anybody Here?" や Paul Simon 作の "Homeward Bound" 等全 12 曲。
 2010 作。Valve)
- *LIZZIE NUNNERY: Company Of Ghosts A
 (2008 年 BBCラジオの "Best Newcomer" 賞優勝の若き女性 SSW のファースト
 アルบั้ม。Lizzie の唄は独特で、夢見る少女のような遊び心があって、
 何とも愛らしく聴き手の心を弾ませる 2010 作。Fellside)
- *JENNA: Brother C
 (21 歳の女性 SSW の Jenna の二枚目。21 歳の娘らしい恋や失恋のほか

見聞きし、体験したことを多感な感性でスケッチした青春物語が、ある時はギターの強いビートの利いた曲調で、ある時はピアノをフィーチャーした気持ちよく流れるような曲調で、ある時はタイトなフォーク・ロック調で自在に空を舞うようにうたう。若き、魅力溢れる女性 SSW だ。2009 作。

Hands On Music)

- *ELBOW JANE:3 Side Island B
(リパールの風景や人の心は変わったが、希望と栄光は生きていこうとうたう男性 5 人組。5 人の内 3 人がヴォーカルを取るが、それぞれのヴォーカルが思索的で、アコースティックな音楽は穏やかで滋味溢れるもの。ヴォーカルとハーモニーから生まれる柔らかな緊張感は見事で、むしろ SSW アルバムとして質の高さを見せている。ブリティッシュ・フォークとして音楽の質が高い。2009 作。Fellside)
- *LUKA BLOOM:Riverside ¥1880
(w. Liam O' Maonlai, Eileen Ivers, Conor Byrne, etc. 90 作。Reprise)
- *LUKA BLOOM:The Barry Moore Years B
(Barry Moore が Luka Bloom と名前変える前のフィンガー・ピッキング・ギターの美しい弾き語り時代に発表した“Treaty Stone”{78 作}、“In Groningen”{80 年}、“No Heroes”{82 年}の初期 3 枚のアルバムからの 15 曲入編集 CD。70 年代ブリティッシュ・フォークの芳香薫る Barry Moore 時代の CD だ。2001 作。Luka Bloom)
- *KATRIONA GILMORE & JAMIE ROBERTS:Shadows & Half Light B
(2010 年 BBC の“Horizon Award”入賞の Katriona {ヴォーカル、フィドル} & Jamie {ヴォーカル、ギター}の若き男女デュオ。作詞作曲は Jamie が主でヴォーカルも Jamie が主にリードを取り、Katriona はハーモニー役。Jamie の理知的で思索的で、英国的陰影に富むヴォーカルと Katriona の涼やかなヴォーカルが魅力。理想のブリティッシュ・フォーク。2008 作。Gilmore Roberts)
- *MIKE SILVER:How Many Rivers A
(英国の叙情派 SSW と言えば Ralph McTell に Johnny Coppin そして Mike Silver。Mike の英国的叙情性豊か唄は最高潮。w. J. Coppin, R. McTell, Jo Partridge, Martyn Wyndham-Read, Phil Beer, Julie Silver, Roger Nichols, Mick Dolan, etc. 2008 作。Faymus)
- *JACK McNEILL & CHARLIE HEYS
:Light Up All The Beacons B
(Jack&Charlie のフレッシュなデビュー作。2008 作。Fellside)
- *CRUACHAN:Tuatha Na Gael C
(アイルランドのフォーク・ロック・バンドの 95 年作に 97 年録音の 3 曲のボーナス曲を加えた再発盤。全 12 曲入。彼らの男女のヴォーカルを含め、夢想性と魔性を帯びたアイルランドのフォーク・ロックの醍醐味は物凄い。リアン・パイプスやホイッスルや小鳥の囀り等が彼らのエネルギッシュなフォーク・ロックに +α の魅力を注入している。ジャケットもブックレットも何から何まで、ケルティックで神秘的。95/97 作。オランダ Karmageddon Media)
- *GINA LE FAUX:In My Life C
(ほぼ Martin Simpson {トランプ、テレキャスター} と Andy Cutting {モーテルイオン} が全面バックアップする良質の女性 SSW アルバム。Gina のヴォーカルは Iain Matthews のような高音が伸びる男性 SSW のような声質とヴォーカリス

タイルで、M. Simpson の味わいのあるドブの伴奏で、心象風景や心模様をゆったりと唄にしたという感じで、一曲一曲が唄のスケッチのよう。2009 作。Le Faux Music)

- *SAM LEWIS:Everything You Are C
(Sam はある種 J. J. Cale のような、何とも夢うつつな魅力的な SSW。ロックバンドのギタリストで Neil Young のファンという Sam 自身が奏でるギターやラップ・スティール・ギターは感覚的で、緩くも星の輝きのような音色で目覚めの悪い唄にぴったしはまっている。このうとうとした感触は凄いい魅力。一度聴くと病みつき。Bert Jansch とツア-をしたりもしているようだが、どんなコンサートなんだろう?2007 作。Rusk)
- *THE SAW DOCTORS:Live At The Melody Tent B
(アイルランドのフォーク・ロック・バンドの雄、Saw Doctors のライブ・アルバム。録音は2008 年の夏。Runrig クラスの魂揺さぶるフォーク・ロックだ。凄い! 2008 作。Shamtown)
- *THE SAW DOCTORS:All The Way From Tuam(1992 作。Shamtown) B
- *THE SAW DOCTORS:Villains?(2001。Shamtown) B
- *ROARING JELLY:Golden Gates / MICHAEL HEBBERT
:The Rampin' Cat a
(イギリスのラグタイムやスキップ、ジブシー音楽、古いジャズやポピュラー音楽そしてセピア色の愉快的唄のコミック・バンド Roaring Jelly [Derek Pearce, Clive Harvey, Mick Hennessey] の76 年のデビュー作とパフ・ミュージシャンでコンサ-ティ-奏者の Michael Hebbert の76 年のデビュー作の"2 on 1"。全22トラック。76/2008 作。Free Reed)
- *DAVID LEWIS:Ghost Rhymes A
(Andwella の D. Lewis ではないもう一人の素晴らしい SSW の D. Lewis の2007 作。本作も John Wesley Harding が全曲でまるでデュオのように付合っている。この David の英国人的感性が光る弱々しい感触が何とも言えず魅力。D. Lewis の陰影に富む唄そして細やかな音作りは本当に魅力的。男性 SSW だが SSWファンは皆胸キュン保証。2007 作。WOW)
- *JIMME O' NEILL:Real C
(スコティッシュ・バンド "Silencers" のリーダーでヴォーカルの J. O' Neill のギター弾き語りを中心にしたファースト・アルバム。2008 作。Keltia Musique)
- *CHRIS WHILE:Look At Me Now A
(ヴェテラン女性 SSW の Chris While の1994 年のアルバム。1994 作。Fat Cat)
- *CHRIS WHILE:Rosella Red A
(ヴェテラン女性 SSW の Chris While の2007 年のアルバム。w. Kellie While, Gerry Conway, Joe Broughton, Neil Fairclough, etc. 2007 作。Fat Cat)
- *MARTYN JOSEPH:Full Colour Black And White A
(5 枚目。帰郷の喜びを全身で唄った軽快な1曲目 "Going Home" の門をくぐると、まるで自問自答するような Martyn の詩情溢れる唄の世界。録音は Michael Weston King の "God Shaped Hole" と同じ Martyn の家の屋根裏部屋スタジオ。SSW アルバムの原点。96 作。Grapevine)
- *MARTYN JOSEPH:Far From Home A
(間も中から響いてくるようなアコースティック・ギターのクリアな響きと共に

- Martyn の純な唄達が心に染みわたる絶句のアルバム。99 作。Pipe)
- *STEVE ASHLEY:Time And Tide G
(S. Ashley の本作は英国的陰影に富む 70 年代ブリティッシュ・フォーク回帰の名品。w. Chris Leslie, Simon Nicol, Dave Pegg, Robin Williamson, Paul Manning, etc. 2007 作。Topic)
- *XAVIER BARO:Flors De Joglaria ¥1500
(スペインのフォーク・シンガー。カタルニャのフォーク・シンガーの X. Baro の本作は 70 年代ブリティッシュ・フォーク・スタイルのフォーク/フォーク・ロック。Xavier は夢の旅人のイメージでのトルバドール的でエレキ&アコースティック・ギター、ベース、オルガン、ピアノによる甘味ある優美なフォーク/フォーク・ロック。教会風オルガンや甘みあるギター等が 70 年代風ブリティッシュ・フォークの夢見心地さを引き立たせ、Xavier の唄は仮想の夢のサウンドの中でゆったり舞う。スペインのシンガーによる耽美的ブリティッシュ・フォーク。2006 作。Quadrant)
- *INCREDIBLE STRING BAND:Nebulous Nearnesses B
(Mike Heron, Clive Palmer, Lawson Dando, Fluff, Gavin Dickie, Steini Gudmundsson というラインナップの 2005 年版 ISB。余計な贅肉が落ちて牧歌的で清々しくて微笑ましいブリティッシュ・フォーク。どことなく英国版 Woodstock Mountain Revue 的音楽。スペインQuadrant)
- *BERT JANSCH:Nicola A
(2 曲ボーナス付。詳細解説付。67/2002 作。Sanctuary)
- *BERT JANSCH:Birthday Blues A
(2 曲ボーナス付。詳細解説付。69/2001 作。Sanctuary)
- *BERT JANSCH:The Ornament Tree(90 作。Sanctuary) A
- *BERT JANSCH:From The Outside A
(紛失曲“I Sure Wanna Know”を収録し、新たに CD 再発。93/2001 作。Sanctuary)
- *BERT JANSCH:Live At The 12 Bar(96 作。Sanctuary) A
- *BERT JANSCH:Crimson Moon(2000 作。Sanctuary) A
- *BERT JANSCH:The River Sessions B
(74 年 11 月グラスゴーの City Hall でのライブ。74/2004 作。River)
- *BERT JANSCH:Dazzling Stranger A
(アンソロジー-20 曲入編集 2 枚組。2000 作。Sanctuary)
- *BERT JANSCH:Black Swan(2006 作。Drag City) A
- *JOAN ARMATRADING:Into The Blues B
(全て自作曲だが、ブルース色濃厚な Joan の本作はブルースマンのブルース魂が乗り移ったスピリットの高いブルース。活きの良いブルースが快感。2007 作。Hypertension)
- *ANDY WHITTLE:Old Fashioned Dream B
(ブリティッシュ・フォークの優等生!と叫びたいくなるノッティンガム出身の若干 24 歳の SSW の瑞々しいデビュー作。理想の SSW アルバム。2005 作。Folkwit)
- *SCOTT MATTHEWS:Passing Stranger B
(驚きの個性的な SSW だ。ピュアさと泥臭さとを併せ持ったというか、全体として Nick Drake 的ムードを漂わせていて、自己陶醉型なのだが、スライド・ギター等ギターの名手でもあって、泥臭いブルースの世界も覗かせていて奥が深い。2006 作。San Remo)
- *PLAINSONG:Dark Side Of The Room(92 作。トイLine) ¥1980

- *ROGER MORRIS:Light Up The Road ¥900
 *ROGER MORRIS:Beholder ¥900
 (Roger Morris“First Album”のあのR. Morrisの2001年作の2枚目と2004年作の3枚目)
- *JUDY DINNING:Fine Times D
 (ノサンパ・ランド出身のJudyが故郷を唄ったもの。2003作。MWM)
- *LEE COLLINSON:Breathless a
 (ブリティッシュ・フォーク・ギタリストとしてかつ英国的センスが光る味のあるシンガーとして知る人ぞ知るLeeの6年振りアルバム。Martin Simpsonの繊細&鮮烈ギターに独自のスタイルを加味したアコースティック・ギターの輝きとコクは、流石。釘づけ…。2000作。Chama)
- *GRAHAM LYLE:Something Beautiful Remains A
 (ブリティッシュ・フォークの数々の名作を生み出したGallagher&LyleのGraham Lyleのソロ。ほろ酔い気分。2003作。トイHypertension)
- *JOHN LEO CARTER&CO.:Candyloss Girl C
 (アイルランドのSSWだが、感性鋭いアコースティック・ギターの瞑想的響きとJohnの夢想的ヴォーカルはNick Drakeを想起させる。w. John Spillane, Mairead Kelly{ハーブ、ヴォーカル}, Edel Sullivan{フィドル、ヴォイラ}, Thaddeus Buckley{フズキ}, etc. 2003作。Circle)
- *JASON O' DRISCOLL:Dharma C
 (JasonはアイルランドのソークのSSWのようなのだが、たわいもない唄を素直に心優しくメロディアスに唄う。その素直さと浮遊感ある緩やかな唄が心地よい。2003作。Jason O'Driscoll)
- *MAGGIE HOLLAND:Circle Of Light B
 (フォーク・シンガーのMaggieの唄ときっちり向き合った存在感あるフォーク・アルバム。全15曲。2003作。Irregular)
- *THE VARAFLAMES:Throwing Shapes B
 (Nab Noakes, Rod Clements, Fraser Speirs, Pick Withersにバックアップ・ヴォーカルでGill Bowman&Karina Polwartが加わったVaraflamesのおやじ飲む懐古趣味ロック。2000作。Neon)
- *RAB NOAKES:Rarities + Demos Vol.1 C
 (マルチメディア機能付CD。70年作のデビュー作前の69年に家庭用レコーダーで録音していたテープからの全15曲。1曲1曲が磨かれる前の原石の輝き。CD-ROMはRabの長いおしゃべり弾き語りビデオにフォト・ギャラリーほか。2002作。Neon)
- *LINDISFARNE:Promenade B
 (何とも温かい心地になれる温かで懐かしいLindisfarneのNew。2002作。Park)
- *LINDISFARNE:The Cropredy Concert A
 (94年のCropredyのライブ。97作。Mooncrest)
- *LINDISFARNE:Buried Treasures Vol.3 A
 (未発表曲集第3弾。17曲+α。2000作。Siren)
- *ROD CLEMENTS:One Track Mind B
 (3曲ボーナス付再発。LindisfarneのR. Clementsが自身のルーツの音楽フォークやブルースへの回帰そして回想したもの。w. Ray Laidow, Steve Cunningham。94/2001作。Siren)

- *SONNY CONDELL: Backwater Awhile A
 (触ると壊れそうな優しい唄と伴奏と唄の世界。S. Condell は正に夢織り人。自分の居心地のいい唄世界を創造し、オリジナリティな夢音楽を生み出している。2001 作。Backwater)
- *KEVIN DOHERTY: Strange Weather A
 (ウッドストック録音。w. Gerry O' Connor, Levon Helm, Amy Helm, Rick Danko, Aaron Hurwitz, Mike J. Dunn, Randy Ciarlante, etc. 99 作。)
- *FAYE ROCHELLE: Reflections B
 (Faye 嬢の唄は一種独特。不思議な浮遊感がある。裏返るヴォーカルによつて東方風味のエキゾチックなサウンド...。女性的な感性がきらめく唄。w. Nigel Eaton, Kuljit Bhamra, Steafan Hannigan, etc. 2000 作。Offspring)
- *ANDREW WHITE: Pray For Rain B
 (スコットランド出身の SSW で屈指のブリティッシュ・フォーク・ギタリストの心飛ぶデビュー作。2001 作。Vertical)

[DVD&CD/FAIRPORT]

- ※NTSC all regions 国内製 DVD プレーヤーで再生可能
- *RICHARD THOMPSON: Live From Austin Tx (DVD) B
- *RICHARD THOMPSON: Live From Austin Tx (CD) A
 (2001 年 7 月、Austin City Limits でのライヴ。メンバーは R. Thompson と Danny Thompson {ベーンズ} と Michael Jerome {トラムス}。1 曲目から 8 曲目までアコースティック・ギターで、9 曲目から 14 曲目までエレキギターそして 15 曲目がアコースティック・ギター 16 曲目がエレキギター {最後の 16 曲目は DVD のみに収録} の演奏なのだが、R. T. は真剣なギタープレイとヴォーカルを披露し、終始釘付け。2005 作。New West)

[CD/FAIRPORT&ALBION FAMILY]

- *RICHARD THOMPSON: Acoustic Classics II B
 (Richard Thompson のギター弾き語りによるアルバム "Acoustic Classics" の続編の "Acoustic Classics II"。"She Twists The Knife Again", "Genesis Hall", "Meet On The Ledge", "Crazy Man Michael" 等々、聴き込んだ馴染みの曲が新たな命を得て耳に飛び込んでくる。いやはや R. T. のキラリと光るアコースティック・ギターの何と繊細なこと！そしてヴォーカルも集中力があって、渾身なこと！ひとつひとつの「音」に一心に念じるような気概が感じられる静かな傑作。全 14 曲。2017 作。Beeswing)
- *RICHARD THOMPSON BAND: Ducknapped ¥2790
 (R. T. のオンライン・ショップのみで発売の自主製作 CD。R. T. に Pete Zorn, Earl Harvin, Danny Thompson, Rory McFarlanee による R. T. Band の 2003 年 3 月の英国ツアー時と米国カリフォルニアでのライヴ。ゲスト: Christine Collister & Judith Owen。全 14 曲。2002 作。Beeswing)
- *RICHARD THOMPSON BAND: More Guitar ¥2790
 (R. T. のオンライン・ショップのみで発売の自主製作 CD。R. T. に John Kirkpatrick, Clive Gregson, Christine Collister, Pat Donaldson, Kenny Arnoff による R. T. Band の 1988 年のライヴ。全 12 曲。2003 作。)

- Beeswing)
- *RICHARD THOMPSON BAND: Faithless ¥2790
 (R. T. のオンライン・ショップ のみで発売の自主製作 CD。R. T. に Clive Gregson, Christine Collister, Gerry Conway, Rory McFarlane による R. T. Band の 1985 年の白熱ライヴ。2004 作。Beeswing)
- *DAVE SWARBRICK: It Suits Me Well
 - The Transatlantic Recordings: 1976-1983 ¥2790
 (“Swarbrick” {1976 年}, “Swarbrick 2” {1977 年}, “Smiddyburn” {1981 年}, “Flittin” {1983 年} の “2 in 4” の二枚組 CD。全 46 トラック。2016 作。Cherry Tree)
- *FAIRPORT WITH SWARB: Scrum-Half Bricking ¥2790
 (副題 “Fairport With Swarb At Derby”。2003 年、Derby のアセンブリールームに Dave Swarbrick を招いて、収録した D. Swarbrick 救援 1000 枚限定超レアなチャリティー CD。2003 作。Front Row)
- *DUNCAN WOOD & GUESTS: Swarbricks B
 (本作のアイデアは Cathal McConnell と Duncan Wood が Swarb と Edinburgh Folk Club で共演したことに始まる。全曲 Swarb 作曲の曲で全 17 トラック収録。マンドリン、マンドーラ、フィドル、ヴァイオリン、バウロン等を演奏する Duncan は、Swarb の曲は完成されていて、簡単には編曲不可能と判断し、じゃあセッションしてで作ろう！ということになって、Cathal McConnell {フルート、ホイッスル}、Martin McDonald {ギター、ボウズ}、Gavin Sutherland {ギター}、Maureen Hunter {ハープ} の仲間とフォーク・クラブでセッションするように作ってしまったのが本作。これが功を奏して、まるで Boys Of The Lough のようなスコティッシュな Swarbrick Music が完成。2013 作。Beaechwood)
- *ALISTAIR HULETT & DAVE SWARBRICK
 : The Cold Grey Light Of Dawn (1998 作。Musikfolk) C
- *ROSIE CARSON & KEVIN DEMPSEY: Nightbirds B
 (Dando Shaft、Whippersnapper の K. Dempsey とアイリッシュ系フォーク・シンガーでフィドル奏者の世代違いの男女のデュオ。Kevin は Rosie という花を得て、Kevin の美学を深めた独自のブリティッシュ・フォークを开花させていて、もううっとり。小春日和な日にのほほーんと聴いていなくなる。2014 年制作の 2016 リリース作。Haystack)
- *ASHLEY HUTCHINGS BIG BEAT COMBO
 : Twangin’ ‘n’ A-traddin’ Revisited B
 (1994 年作の Big Beat Combo = Ashley Hutchings, Richard Thompson, Simon Nicol, Maartin Allcock, Simon Care, Phil Beer 他 = の青春時代のポップ & ロック・アルバム “Twangin’ ‘n’ A-traddin’” に三曲 {内二曲は 60 年代風ガールズ・トリオの “Velveteens” がヴォーカルを加えた “Revisited” 版。全 15 トラック。三つ折り紙ジャケット仕様。十代の頃の写真。1994/2015 作。Talking Elephant)
- *ALBION CHRISTMAS BAND: One For The Road B
 (2013 年、Albion Christmas Band {Ashley Hutchings, Simon Nicol, Kellie White, Simon Care} が結成 15 周年を記念して行ったツアーの中から、その年の 12/12 にロンドン の Kings Place でのライヴ を収録し

た新作。何と19トラック！最近 Ashley Hutchings がらみのまともな新録アルバムのリリースがないことから、「Ashley は引退？」と半ば心配していたが、達者のヴォーカルとバンド・リーダーとしての雰囲気あるしゃべりを聴き、一安心。本作は一に Kellie White の美しいシンキング、二に Simon Nicol の穏やかなシンキングが良い。クリスマスの Happy な曲以上に清く美しい曲が多い英国的に美しいクリスマス音楽だ。2014 作。

Rooksmere)

- *ALBION DANCE BAND: I Got New Shoes Revisited A
(Albion Dance Band {Ashley Hutchings, Phil Beer, Simon Care, Trevor Foster, John Shepherd} そしてゲストの Polly Bolton) の 1988 年作が CD 再発。ボーナス・トラック3トラック [2 曲がライヴで 1 曲がスタジオ録音] 付の全 13 トラック。この時代の Ashley 関連のアルバムはどれも勢いがある。久しぶりに本作を聴いたが、スツと重くて跳ねるドラムス、ノイズなエレキギター、中世風味等など渾然一体としたる英国風フォーク・ロックはハワフルでかつジャンプ力がある。皆さん、乗ってますねえ。1988/2014 作。
Talking Elephant)
- *SIMON NICOL: Consonant Please Carol A
(Simon Nicol の 1992 年作のセカンド・ソロアルバム。"Rosemary's Sister" の作者 Huw Williams 作の曲を 4 曲を含む本作は、英国的叙情はさらに深まっていて、しんみりと心に響く。名作。w. Martin Allcock, Gerry Conway, Danny Thompson, Maggie Reilly, Beryl Marriott, Grant Bowden, Sherryl & Sheila Parker, Pete Zorn. 1992/2014 作。
Talking Elephant)
- *CHRISTMAS IN ALBION "A Festive Compilation" A
(Albion Band, Albion Christmas Band, St Agnes Fountain, Phil Beer, Fairport Convention, Chris & John Leslie, Amazing Blondel, Andy Steele の「フォーク・ロック」なクリスマス・ソング集。全 20 トラック。2012 作。Talking Elephant)
- *FAIRPORT CONVENTION: And The Band Played On B
(2003 年 2 月 22 日の Marlowe Theatre のコンサート・ライヴ音源からの 20 トラック [26 曲] 収録の 2 枚組。メンバーは、S. Nicol, D. Pegg, Rick Sanders, Chris Leslie, Gerry Conway, Andy Guttridge. 2012 作。Secret)
- *SHIRLEY & DOLLY COLLINS: Snapshots A
(1970 年代後半のライヴと 60 年代録音のデモ音源数曲の計 22 曲入。Shirley のシンキングと Dolly の牧歌的なオルガンの音色はイングランドのトラッドの牧歌的で故郷のような温もりを保持。2006 作。Fledg'ling)
- *FAIRPORT CONVENTION: Before The Moon D
(1974 年の Ebbets Field でのライヴ。二枚組。20 トラック。2002 作。Pilot)
- *ANNE DE BRETAGNE C
(ハード・カバー装丁の 2 枚組。副題 "Le Rock Opera d' Alan Simon"。全曲 Alan Simon 作詩作曲の中世ブルターニュの歴史絵巻物語。参加ミュージシャンが豪華。Cecile Corbel, Fairport Convention, Chris Leslie, Tri Yann, Didier Squiban, Pat O' May 等など。全 30 曲。色鮮やかに描かれた P48 の歴史絵巻ブックレット付。2009 作。Babaika)
- *THE GATHERING BRITANNIA: The Bridge Between a
(Gathering Britannia なるバンドのラインナップは何と、Ray Jackson,

Jerry Donahue, Doug Morter, Rich Kemp, Clive Bunker,そして
Jerry Donahue の娘でシンガーの Kristina Donahue という Fairport,
Fotheringay, Albion Band, Steeleye Span, Jethro Tull 出身者の
夢のバンド。おじさん達の中で、Kristina の優美なヴォーカルが花を添
えている。Produced by Jerry Donahue, Ray Jackson and Doug
Morter。2011 作。Itsaboutmusic.com)

*FAIRPORT CONVENTION: More Things We Did On Our Holiday B
(2 枚組セット。ディスク1 は 1986 年の Cropredy Festival のライヴで全 12 曲
{内 4 曲は Iain Matthews がリード・ヴォーカル。その I. Matthews に S. Nicol,
D. Pegg, D. Mattacks, M. Allcock, R. Sanders, R. Thompson, Jerry
Donahue, Cathy Lesurf, Clive Gregson, Christine Collister}。
ディスク2 は 1987 年の Cropredy Festival のライヴで全 13 曲 {S. Nicol,
D. Pegg, D. Mattacks, M. Allcock, R. Sanders, R. Thompson, Ralph
McTell, June Tabor, D. Swarbrick, Ian Anderson, Cathy Lesurf}。
Produced by Dave Pegg。Secret)

*ALBION BAND

: Another Christmas Present – Live In Concert A
(Cathy Lesurf, Ashley Hutchings, John Tams, Phil Beer, Martin
Bell, Trevor Foster のラインナップで 1986 年に行ったクリスマス・ツアーの未発
表ライヴ盤。全 19トラック。2010 作。Talking Elephant)

*ALBION BAND: Vintage Vol. 2 A
(Albion Band の 1972 年～80 年間の未発表音源を集めた編集 CD。メ
ンバーは Ashley Hutchings, Shirley Collins, Martin Carty, Dave
Mattacks, Simon Nicol, Sue Harris, John Kirkpatrick, John Tams,
Graham Taylor 等無敵のメンバー。70 年代 Albion/Albion Dance Band
の集大成的音楽。全 15トラック。2010 作。Talking Elephant)

*ASHLEY HUTCHINGS&RAINBOW CHASERS: A Brilliant Light A
(Ashley&Rainbow Chasers の 2004 年 12 月のライヴ。16 曲入の 2 枚組。そ
れぞれが魅力的なヴォーカルを披露し、ギター、フィドル、ヴァイオリン等のアコースティ
ックな音色が美しい英国的叙情と気品溢れる唄と音楽が堪能できる
心洗われるライヴ。2005 作。Secret)

*ASHLEY HUTCHINGS AND KEN NICOL: Copper, Russet And Gold C
(Ashley の、Albion も Rainbow Chasers も離れての本作は長年の音楽
仲間でギター名手でシンガーの K. Nicol との共演盤。K. Nicol はブリティッシュ
フォーク然とした美麗で巧みなアコースティック・ギターで、かつ時に格調高いエレ
キギターをかき鳴らし、英国情緒を豊かに演出し、Ashley と K. Nicol
が毅然としたヴォーカルで Ashley&Ken 流英国情緒を堪能させる。ゲスト
で美声を震わす Abbie Lathe と Becky Mills が良き英国情緒の芳香
を添えている。2010 作。Park)

*ALBION BAND: Captured B
(1990&91 年の Albion Band {A. Hutchings, Julie Matthews, Phil
Beer, Simon Care, Trevor Foster} と 1992 年の Albion Band {S. Care
と T. Foster が抜け、ギターの Keith Hinchliffe が加入} の音源からの
編集盤で全 13トラック。2009 作。Talking Elephant)

*ASHLEY HUTCHINGS & ERNESTO DE PASCALE

: My Land Is Your Land C

(イングランド側は Ashley&Friends とイタリア側は Ernesto De Pascale& Friends の共演アルバム。Ashley 側は、Rainbow Chasers のヴォーカルの Ruth Angell&Jo Hamilton の二人に Chris Leslie, Ken Nicol, PJ Wright, Lester Simpson, Marc Hutchinson 等強力ラインナップで、イングランド情緒を湛えた潔いフォーク・ロック。2008 作。Esoteric)

*KEITH DEWHURST & THE ALBION BAND

:Lark Rise To Candleford B

(Albion Band の 1980 年作。80/2008 作。Talking Elephant)

*SWEEPS "A Joyful Celebration Of The Morris" B

(Albion Dance Band, Morris On Band, Grandson And Great Grandson Of Morris On, Chris Leslie, Tickled Pink, Albion Band, Cobbled Together の音源からの生え抜きも収録曲が全 14トラック。BGM で流してるだけでモリス祭り気分。2008 作。Talking Elephant)

*ALBION MORRIS:Still Dancing After All These Years B

(Albion Morris は Ashley Hutchings のモリス・ダンス曲のロッシェのアプローチに影響を受けて 1972 年に結成されたダンサー付グループ。本作は 2002 年の 30 周年記念にどこぞの屋根裏部屋で録音されたもの。メンバーは Shirley Collins{ここではナレーション役}, Graeme Taylor, Michael Gregory, Philip Picket, Tom Leary, John Watcham, Ian Culter, Jon Davie 等モリス界のツモノを含むメンバー。2008 作。Talking Elephant)

*DAVE PEGG&PJ WRIGHT:Galileo's Apology a

(Fairport の D. Pegg と Little Johnny England, Dylan Project の PJ とのデュオアルバムはオヤジ趣味の渋く気概があり、それでいて風通しの良い爽やかな SSWタイプ音楽。2007 作。Matty Grooves)

*THE WORKING PARTY:Live At The Mill ¥1000

(Working Party は Chris Leslie, Troy Donockley, Simon Mayor, Chris Parkinson, Martin Allcock によるスーパー-即席バンド。"The Kid on the Mountain", "The Lark in the Morning", "Sigh Beag Sigh Mor", "The Mason Apron", "The Star of County Down" 等等など名曲ずらり。2006 作。TWPPCL)

*SANDY DENNY:Where The Time Goes ¥2190

(1967 年収録の Strawbs との同曲のオリジナルバージョンをフィーチャーした 18 曲。本作自体は 1967 年 Saga というレベルから発売された Sandy の最初のスタジオ録音音源からその時のアウテイク 5 曲を含むもの。67/2005 作。Sanctuary)

*SANDY DENNY:The Original Sandy Denny ¥2190

("North Star..." の前の 67 年作。Trojan/Sanctuary)

*SANDY DENNY:Sandy a

(72 年作 "Sandy" に "Pass Of Arms" からの 2 曲を含むボーナス曲 5 曲を加えたリマスター盤。72/2005 作。Island)

*SANDY DENNY:Like An Old Fashioned Waltz a

(73 年作 "Like An Old Fashioned Waltz" に未発表音源から 4 曲のボーナス曲を加えたリマスター盤。73/2005 作。Island)

*SANDY DENNY:Rendezvous a

(77 年作 "Rendezvous" にプロモーション・シングル の B 面を含むボーナス曲 5 曲を加えたリマスター盤。77/2005 作。Island)

- *JOHN&CHRIS LESLIE:Ship Of Time D
 (John&Chris Leslie 兄弟の 76 年製作のデュオ・アルバム。John&Chris が
 イングランド等のダンス曲と民謡を若い頃から愛していたのが牧歌的な
 トラッドの演唱からほんわかと伝わってくる。青春の日のトラッド。締め
 括りは“Adieu Sweet Lovely Nancy”。76 作。Kissing Spell)
- *FAIRPORT CONVENTION:Off The Desk D
 (2 枚組。Ric Sanders 編集の 2004 年～2005 年のライヴ音源から全 22 曲。
 2006 作。Matty Grooves)
- *FAIRPORT CONVENTION:Live Across The Centries ¥1000
 (2 枚組 20トラック入編集盤。2000 年のオランダでのライヴ録音“Now Be
 Thankful”に“The Airing Cupboard Tapes 71-74”から 5トラック、“Who
 Knows”から 5トラック、“Acoustically Down Under”から 4トラック、“The
 Wood&The Wire”から 1トラックそして“Festival Cropredy 2002”から
 4トラック。2008 作。Smith&Co)
- *FAIRPORT CONVENTION
 :A Lasting Spirit The Collection ¥3280
 (Fairport の 3 枚組。ディスク 1 は希少曲を含む初期の音源と 97 年のク
 ロムレディーのライヴから初期のパートリを収録で 18 曲。ディスク 2 はスタジオ
 録音からの 15 曲。ディスク 3 は主に 97 年のクロムレディーのライヴからで 14
 曲。ライヴのラインナップは R. Thompson, D. Mattacks, Vikki Clayton,
 Jerry Donahue, D. Swarbrick, Rick Sanders, Chris Leslie, Dave
 Mattacks, Bruce Rowland, D. Pegg, S. Nicol とされる。2005 作。
 Sanctuary)
- *FAIRPORT CONVENTION:The Fairport Companion C
 (Fairport 関係音楽家の編集 CD。36トラック収録の 2 枚組。人脈図付。
 Ian Campbell Folk Group, Ethnic Shuffle Orchestra, The Uglys,
 Sandy Denny, The Pembroke Unique Ensemble, Al Jones, , Trader
 Horne, Steeleye Span, Stefan Grossman, Marc Ellington, Shelagh
 McDonald, Shirley Collins&The Albion Band, Spiryogyra, Lal&
 Mike Waterson, Albion Country Band, Ian Matthews, Etchingham
 Steam Band, Harvey Andrews&Graham Cooper, Albion Dance Band,
 Royston&Heather Wood, The Albion Band, Dave Swarbrick, Ashley
 Hutchings&Friends。2006 作。Castle)
- *FAIRPORT CONVENTION:The Battle C
 (ドイツで The Battle というタイトルで発売された“The Five Season”と
 “Red&Gold”の特殊紙ジャケット 2 枚組 CD。2005 作。ドイツMembran Music)
- *FAIRPORT CONVENTION:Fairport Convention A
 (4 曲のボーナス付デジタル・リマスター。68/2003 作。Polydor)
- *FAIRPORT CONVENTION:What We Did In Our Holiday A
 (3 曲のボーナス付デジタル・リマスター。69/2003 作。Island)
- *FAIRPORT CONVENTION
 :Heyday “The BBC Sessions 1968—69 A
 (8 曲のボーナス付デジタル・リマスター。Island)
- *FAIRPORT CONVENTION:“Babbacombe” Lee A
 (2 曲のボーナス[BBC 録音で内 1 曲は J. Donahue、残り 1 曲は S. Denny 参
 加]付デジタル・リマスター。71/2004 作。Island)

- *FAIRPORT CONVENTION:Live Convention C
(5曲のボーナス付デジタル・リマスター。74/2005作。Island)
- *FAIRPORT CONVENTION:Before The Moon C
(2枚組。74年のデッパンバーでのライブでメンバーは Sandy Denny, Trevor Lucas, D. Swarbrick, D. Mattacks, D. Pegg, Jerry Donahue。
全20曲。P22のブックレット付。2002作。Pilot)
- *FAIRPORT CONVENTION:Rising For The Moon C
(4曲のボーナス付デジタル・リマスター。75/2005作。Island)
- *FAIRPORT CONVENTION:House Full A
(2曲のボーナス付デジタル・リマスター。86/2001作。Island)
- *FAIRPORT CONVENTION:Gladys' Leap A
(3曲のボーナス付リマスター。ボーナスは82年の Cropredy のライブで、Trevor Lucas, D. Swarbrick, D. Pegg, J. Donahue, D. Mattacks, S. Nicol の最強の布陣。T. Lucas がヴォーカルの2曲の何と強力なこと。Fairport77
ン感涙! Talking Elephant)
- *FAIRPORT CONVENTION
:What We Did In Our Holiday(69作。Island) ¥1580
- *FAIRPORT CONVENTION:Unhalfbricking(69作。Island) ¥1580
- *FAIRPORT CONVENTION:Full House(70作。Hunnibal) ¥1580
- *FAIRPORT CONVENTION:Angel Delight(71作。Island) ¥1000
- *FAIRPORT CONVENTION
:The History Of Fairport Convention ¥1580
(フェアポート初期のベスト盤。全18曲。フェアポートの人脈地図付。72作。Island)
- *FAIRPORT CONVENTION:Nine(73作。Island) ¥1000
- *FAIRPORT CONVENTION:In Real Time ¥1000
(87年の Cropredy でのライブ。87作。Island)
- *FAIRPORT CONVENTION:Red&Gold ¥1580
(88録音の"Red&Gold"に94年の Cropredy Fes での"Close To The Wind"を加えた再発 CD。HTD)
- *FAIRPORT CONVENTION:The Five Seasons ¥1580
(90録音の"The Five Seasons"に94年の Cropredy Fes での"Caught A Whisper"を加えた再発 CD。HTD)
- *FAIRPORT CONVENTION:Who Knows Where The Time Goes?¥1000
(S. Nicol, D. Pegg, D. Mattacks, R. Sanders に C. Leslie からフェアポート
の97作。ゲスト:R. Thompson。97作。Woodworm)
- *FAIRPORT CONVENTION:Jewell In The Crown a
(95作。Green Linnet)
- *FAIRPORT CONVENTION:The Wood&The Fire a
(S. Nicol, C. Leslie, D. Pegg, R. Sanders, G. Conway から成る衰え知ら
ずの Fairport の New。99作。Woodworm)
- *FAIRPORT CONVENTION:The Cropredy Box D
(Cropredy の30周年ライブ。3枚組。98/2003作。Sanctuary)
- *FAIRPORT CONVENTION:XXXV a
(2001年収録の Fairport30周年アルバムに2002年の30周年記念ツアーの
ライブ音源から Simon Nicol がヴォーカルの"The Widow Of
Westmorland's Daughter"と Chris Leslie がヴォーカルの"Rosie"

- の2曲を加えて発売。全16曲。2001/2006作。Talking Elephant)
- *FAIRPORT CONVENTION:25th Anniversary Concert B
(Fairport 結成25周年記念コンサート{1992年のCropredy Festival}の2枚組ライヴ盤。ゲスト:Robert Plant, Richard Thompson, Chris Leslie, Julianne Regan, Ralph McTell, Dave Swarbrick, Jerry Donahue, Ashley Hutchings, Vikki Clayton, Bruce Rowland, Danny Thompson, Geoff Hughes。92/2007作。Talking Elephant)
- *FAIRPORT CONVENTION:Old・New・Borrowed・Blue ¥1000
(WoodwormとGreen Linnetから発売され長い間廃盤だった1995年アコースティック・フェアポートの“Banbury Mill Theatre”でのライヴ盤が再発。ラストの“Matty Groves/Dirty Linen”のみスタジオ録音。S. Nicol, D. Pegg, M. Allcock, R. Sanders。95/2007作。Talking Elephant)
- *FAIRPORT WITH SWARB:Scrum-Half Bricking D
(D. Swarbrick 救援1000枚限定チャリティーCD。副題“Fairport With Swarb At Derby”。2003作。Front Row)
- *DAVE SWARBICK WITH FAIRPORT CONVENTION:SwarbAid ¥1500
(“The Bonny Black Hare”, “My Heart’s In New South Wales”, “Rosie”, “When I Paint My Masterpiece”の4曲入チャリティーCD。Woodworm)
- *FAIRPORT CONVENTION:Over The Next Hill C
(2004作。Matty Grooves)
- *FAIRPORT CONVENTION:Who Knows? ¥1580
(副題“The Woodworm Archives Vol.1”。1975年10月31日のUxbridge Brunel Universityでのライヴ。メンバーはSandy Denny, Trevor Lucas, Jerry Donahue, Dave Pegg, Swarb, Bruce Rowland。曲目は“Rising For The Moon”, “One More Chance”, “Stranger To Himself”, “Sloth”, “John The Gun”, “Down In The Flood”[B. Dylan作], “Who Knows Where The Time Goes?”他全13曲。2005作。Talking Elephant)
- *THE COMPLEAT DANCING MASTER B
(74/2002作。Fledg’ling)
- *LINDA THOMPSON:Give Me A Sad Song B
(未発表&希少曲集。17曲。2001作。Fledg’ling)
- *RICHARD THOMPSON:Henry The Human Fly B
(テレビ・ユー作にして孤高。オリジナル・ジャケットにはなかった希少写真付。w. Sandy Denny, Linda Peters, Andy Roberts, Ashley Hutchings, John Kirkpatrick, Barry Dransfield, Pat Donaldson, etc. 72/2004作。Fledg’ling)
- *RICHARD&LINDA THOMPSON:Hokey Pokey a
(リマスター。未発表ライヴ音源5曲ボーナス曲入。75/2004作。Island)
- *RICHARD THOMPSON:Mirror Blue(94作。Capitola) ¥1780
- *RICHARD THOMPSON:Action Packed C
(副題“The Best of the Capitol Years”。息子Teddyとの新録1曲と初CD化2曲を含むリマスター全19曲。2001作。Capitol)
- *ASHLEY HUTCHINGS:Kickin’ Up The Sawdust B
(リマスター。77作。BGO)

- *THE ALBION BAND: Albion Sunrise A
(副題“The HTD Recordings 1994-1999”。全 32 曲入 2 枚組。2004 作。
Castle)
- *THE ALBION BAND: Acousticity-On Tour B
(Ashley Hutchings, Simon Nicol, Chris While, Ashley Reed のライヴ
の Albion の 93 年と 94 年のライヴ音源からの編集 CD。2004 作。
Talking Elephant)
- *THE ALBION BAND
: Another Christmas Present From The Albion Band B
(“Live In Concert”。2010 作。Talking Elephant)
- *MORRISON
(モリスダンス曲をフォーク・ロック化した 70 年代ブリティッシュ・フォークの名盤。Ashley
Hutchings, R. Thompson, D. Mattacks, J. Kirkpatrick, B. Dransfield。
ゲスト: Shirley Collins。72/2002 作。Fledg'ling)
- *ALBION BAND: Heritage ¥2080
(これ何だろう?と違って仕入れたら、ボーナス曲 4 曲入計 12 曲の“Rise
Up Like The Sun”[77 作]だった。黄金期の Albion ですね。ゲスト:
Kate McGarrigle, Richard&Linda, Martin Carthy, Andy
Fairweather-Low。77/2001 作。EMI Plus)
- *ALBION BAND: Albion Heart (95 作。HTD) B
- *ALBION BAND: Demi Paradise (96 作。HTD) B
- *ALBION BAND: The Acoustic Years 1993-97 A
(未発表曲 2 曲を含む編集 CD。全 17 曲。HTD)
- *ASHLEY HUTCHINGS: Rattlebone&Ploughjack B
(Morris Dance&Molly Dance Album。76 作。BGO)
- *ASHLEY HUTCHINGS DANCE BAND
: A Batter Pudding For John Keats (96 作。HTD) ¥1780
- *ALBION DANCE BAND: The Prospect Before Us C
(リマスター。76 作。BGO)
- *RIDGERIDERS: In Concert B
(Ashley Hutchings, Chris While, Phil Beers から成る
Ridgeriders のアコースティック・ライヴ。Ashley がらみのアルバムの中でも最
もイングリッシュ的で唄や音楽に最も真摯なアルバム。全 18 曲。2001 作。
Talking Elephant)
- *DAVE SWARBRICK&FRIENDS: The Ceilidh Album ¥700
(CD-R につき検盤済み。1978 年発売の“The Ceilidh Album”に 1977
年音源の 2 曲を加えたチャリティー・アルバム。w. Simon Nicol,
Dave Pegg, Bruce Rowland, Beryl&Roger Marriott, Allan
Robertson。Atrax)
- *DAVE SWARBRICK WITH SIMON NICOL: In The Club ¥700
(CD-R につき検盤済み。1982 年のカセット・アルバムに 81 年、83 年、
84 年音源 5 曲を加えたチャリティー・アルバム。全 16 トラック。
2001 年作。Atrax)
- *ELECTION: Election C
(オーストラリア人女性シンガー、Kerrille Male に Trevor Lucas, Gerry
Conway, Michael Rosen, George Hultgreen から成るフォーク・ロック・バ

ント。彼ら唯一の68年作の本作はブレニアポート/フォザンディイ的とい
うか、米国西海岸ロックの影響を受けた初期ジェファースン・エアレーンのサイ
ケロック。2001再発。Collector's Choice Music)

- *THE BUNCH:Rock On A
(Sandy Denny, Richard Thompson, Linda Peters, Ashley Hutchings,
Dave Mattacks, Pat Donaldson, Ian Whiteman, Gerry Conway,
Trevor Lucas, Tony Cox, Dundee Horns。1972/2003作。Fledg'ling)

[CD/FOLK ROCK]

- *MARY JANE:Tacit A
(70年代ブリティッシュ・フォークの麗しさを追い求めるMary Janeの3枚目は
ライヴ・セッション。Fairport, Steeleye, Trader Horn, Treesのプレイヤーが
お好みの方は必聴。“Matty Globes”そっくりな“Lady Margaret”,
“She Moved thro' the Fair”, “Blackwaterside”ほか全13曲。2000
作。Seventh Wave)
- *THE STEPPES:Drop Of The Creature a
(アイルッシュ・アメリカ人によるフォーク・ロック・バンド。70年代サイケ・ロックとブリティッシュ・
フォークとが出会ったようなミステリアスなロック。70年代趣味丸出し。97作。
Delerium)
- *STONE ANGEL:East Of The Sun B
(Stone Angelの素晴らしいNew。理想のブリティッシュ・フォーク&トラッド。
2001作。Kissing Spell)
- *THE FOLD:Close Up B
(Steve HollandとJoanna Shielのかっこいいヴォーカルをフィーチャーした
英美的美意識発散のフォーク・ロック。体を張ったエレクトリック・ギターやドラムスや
ベースの音が何とも快感。97作。Orange Sky)

[LP+CD/ENGLAND]

- *BELLOWHEAD:Matachin D
(イングラント屈指の大型トラッド・バンドの最近作のボーナスCD付カラーLP限定
盤。2008作。Navigator)

[BOOK+CD/ENGLAND]

- *THE HALLIARD:Broadside Songs ¥2980
(再結成Halliard{Nic Jones, Dave Moran&Nigel Paterson}の新録
曲10曲と1968年録音の7曲の計17曲CDとブロードサイド・ソング30曲収録
ソングブック{A4版P46。ムハ-3人のサイン入!}のセット。2005作。Mollie
Music)

[DVD/ENGLAND] PAL all regions

※PAL専用DVDプレーヤー/パソコンで再生可能

- *NIC JONES:The Enigma Of Nic Jones D
(1982年二月の交通事故の振り返りから幕開けするNic Jonesのド
キュメンタリー-DVD。Nic JonesをはじめとしてJim Moray, Chris Wood,
Martin Carthy, Eliza Carthy, Anais MitchellそしてAshley
Hutchings等など多くのミュージシャンや音楽関係者がNic Jonesにつ

いて語ったり、うたったり、ギターをかき鳴らしたりする場面の後、2010年の“Sidmouth Folk Festival”での Nic Jones Trio {Nic Jones, Joe Jones, Belinda O'Hooley} のライヴが収められている。加えて“Extras”として、Nic Jones Trio が三曲、Eliza Carthy が一曲、Blair Dunlop が一曲、Pete Coe が二曲、ホーム・コンサート風ライヴで収録されている。Nic のにこやかな表情と穏やかなシンギングが印象的。88分。Topic)

*THE WATERSON FAMILY:Live At Hull Truck B
(Norma, Eliza, Mike Waterson, Martin Carty, Mike の妻 Ann, Mike の娘 Rachel, Eleanor, Lal Waterson の息子 Oliver、娘 Marry の Waterson Family の 2010 年の“Homecoming Concert”ライヴ。まるで肝っ玉母さん Norma Waterson の司会進行役。各出演者の見どころ、聴きどころ色々な Waterson 一家の伝統歌ショー。Mike Waterson 翁のシンギングは特に聴きもの。いつの間にやら Eliza の貫禄は母 Norma 以上。“Bright Phoebus”, “Fine Horseman”他全 22 曲。誕生日の祝いもある至福な 2 時間 11 分 32 秒。2011 作。Beautiful North)

*MARTIN SIMPSON:Prodical Son - The Concert C
(ロンドンの Union Chapel でのライヴ。15トラックの 17 曲のライヴと Martin の故郷の小学校や生まれ育った町や家を訪ね、子供時代のことを振り返る映像。放蕩息子だった Martin が亡き母へ捧げた曲を含む 1 曲目のメドレーは何より圧巻で、慎重に音を選ぶギターの演奏を含め、ライヴならではの迫真の演唱は感動的。共演者は Andy Cutting [アキ], Kellie While [ケルイェール], Andy Stewart [アンドーストewart]。2 時間 10 分。2009 作。Topic)

[DVD/ENGLAND] NTSC all regions

※国内製 DVDプレイヤーで再生可能

*ELIZA CARTHY:My Music A
(Eliza Carthy with Jon Boden, John Spiers, Ben Ivitsky, Gideon Jukes の白熱の生演奏からスタートする Eliza Carthy のドキュメンタリー・フィルム。Eliza Carthy のソロの生演奏と上記編成バンドの生演奏をの合間に、Watersons のライヴ {モノクロというのが時代を感じさせる} や Martin Carthy のギター演奏や Marry Waterson&Oliver Knight のライヴや Billy Bragg や Norma Waterson の話しなどを挟む構成。Eliza の渾身の生演奏とシンギングと Eliza が身近に感じられる DVD。Eliza のパワー溢れるフィドル演奏が物凄い。45 分。2013 作。Gonzo)

*JOHN RENBOURN・JACQUI McSHEE:In Concert A
(John の穏やかで鮮やかなギターと唄、そして Jacqui のシンギングはそのアコースティックな空気と相まって、ある種清涼感さえ感じられる気持ちのいいもの。ゲスト:Clive Carroll。1 時間 22 分。2005 作。Hard Road Recording)

(CD/ENGLAND {Free Reedリイシュー盤})

*THE OLD SWAN BAND:The Old Swan Band a
(ダンス音楽としてのみならず、イングランドのトラッド・アルバムとして魅力的な OSB の 78 年の 2 枚目。コンサーティナ&トロンボーンの Mel Dean の加入効果かバンドの音楽は躍動的でダイナミックに変身し、男女の古風なシンギングは

大空をかけるように輝いている。イングランドのダンス音楽の一つの頂点的。78/2008 作。Free Reed)

*ROARING JELLY:Golden Gates / MICHAEL HEBBERT

:The Rampin' Cat

a

(イギリスのラグタイムやスキップ、ジプシー音楽、古いジャズやポピュラー音楽そしてセピア色の愉快的な唄のコミックバンド Roaring Jelly [Derek Pearce, Clive Harvey, Mick Hennessey] の76年のデビュー作とパブ・ミュージックでコンサーティナ奏者の Michael Hebbert の76年のデビュー作の"2 on 1"。ゲスト:Rod&Danny Stradling, John Tams, Steve Bentley, Andrew Frank [ヴォーカル]。全22トラック。76/2008 作。Free Reed)

*ALISTAIR ANDERSON:Concertina Workshop

a

(副題"Traditional Music On The English Concertina Played Alistair Anderson"。High Level Ranters で今もコンサーティナ演奏家そして教師として活動している Alistair の74年作。本作に即した28曲収録の楽譜はイングリッシュスタイルのコンサーティナを学ぶ生徒に人気。模範演奏として最高の音楽。w. Dave Richardson, Tich Richardson, Geoff Harris, Graham Pirt [見事なトラット・シンキング!]。A. L. Lloyd のオブリガトリー・ノート付。14トラックの28曲。74/2008 作。Free Reed)

*THE TRANSPORTS"The 1977 Ballad Opera By Peter Bellamy"D

(オーストラリアへの囚人の搬送の歴史的事実をもとに制作されたバラッド・オペラ。発売年に"Folk Album Of The Year"に輝き、その30周年記念に再リリース。w. June Tabor, Nic Jones, A. L. Lloyd, Martin Carthy, Norma Waterson, Mike Waterson, Vic Legg, etc.ラストはボーナス曲で Fairport による"Dance:The Convicts' Wedding"の豪快なエレクトリック・トラットで幕。77/2008 作。Free Reed)

[Vinyl EP/ENGLAND]

*SHIRLEY COLLINS:Shirley Sings Irish

¥1690

(Collectors レコードから発売されていた稀少4枚のEPの中の四枚目のEP"Shirley Sings Irish"がおおよそ50年の時を経て、7インチEP盤で再発売された。Robin Hall の素朴なギターの伴奏の音色といい、Shirley Collins の爪弾くバンジョーの音色といい、そして主役の Shirley Collins の素朴なシンギングといい、部屋の空気が当時 S. Collins が呼吸していた時代の空気に入れ替わってしまう気になるほど、唄も音も温和で素朴で涙が出るほどおっとりとしていて美しい。つい回転数を間違えたかな?と思ってしまうほどゆったりした"She Moves Through The Fair"の甘い美しさは、特に格別。曲目はA面が"Love Is Teasing", "She Moves Through The Fair"の二曲で、B面が"The Bold Irish Boy", "Must I Go Bound", "Dennis O' Reilly"の三曲。この素朴な味わいはビニール盤じゃないとね。2016年制作の2017年発売。Fledg'ling)

*MARTIN CARTHY & DAVE SWARBRICK:No Songs

¥1690

(1967年にFontanaから発売されていた幻?のEP"No Songs"が7インチEP盤で再発売された。タイトル通り唄はない。面白いのはアイリッシュの二曲と Fairport のレパートリーの"Jenny's Chickens"の三曲での Martin のリズムギターと何と! Dave Swarbrick のマ

ンドリンのコラボのノリの良さ！全体的な印象はマンドリンとフィドルの Swarbrick がリーダーシップを取る演奏をし、Martin が縁の下の力持ち的に的確かつちょっぴり遊びのあるリズムギターで饗演した印象。新時代を築く直前の気力が満ちた演奏を実感できる見事な演奏集だ。曲目はA面が“Gillen’ s Apples”, “Snug In The Blanket, Grey Daylight”, “Jenny’ s Chickens, The Banks” の三トラックで、B面が“The Bee’ s Wing”, “The Irish Washerwoman, The Ash Plant”, “Bonny Kate, The Reconciliation” の三トラック。1967年/2017作。Fledg’ ling)

[Single CD/ENGLAND]

- *EQUATION: In Session ¥1200
(Kate Rusby&Kathryn Roberts+Lakeman Brothersの五人組。
1995年のライヴ。全三曲。Crapstone Music)

[CD/ENGLAND]

- *JOHN KIRKPATRICK Coat-Tails Flying A
(9/14入荷予定。John Kirkpatrickの新作。世界大戦時代の唄、農作業の唄、シュロップシャー地方の唄、自作曲、モリス・ダンス曲等14トラック収録とのこと。楽しみ！2017作。Fledg’ ling)
- *DOGGERLAND: No Sadness Of Farewell B
(英国人 Richard Burgess {ヴォーカル、コンサーティナ、ギター他} とスウェーデン人北欧トラッドの名演奏家 Anders Ådin {ギター、ハーディーガーデー} の二人組“Doggerland”のデビュー作。聴くなりリスニング・ルームの空気が変わった。英国フォーク&トラッド的感性なのだが、おそらく北欧の自然環境や生活やトラッドの影響だろう。感性が清々しくって、夢想的というか、Richardのシンギングもイングランド、北欧トラッド混在のアコースティック・サウンドも、その究極の美しさに息をのむ。Richard Burgessなるシンガーの名は初耳なのだが、彼のシンギングに加えて、Andersの演奏を含む二人の演奏の見事さは、まさに孤高。英国の伝統歌や北欧の伝統歌に加え、Ewan MacColl や Richard Thompson 曲などを Doggerland ならではの感性で彩りきっている。w. Kevin Henderson, Mats Eden。2017作。Westpark)
- *GEORGIA LEWIS: The Bird Who Sings Freedom B
(イングランドからまた一人素晴らしい若き歌姫がデビューした。本人と思われるジャケット写真はおそらく変装したものだろう。どこにこれほど、そう、タイトルからイメージされるような軽やかで自在なシンギングをするシンガーが隠れていたのだろう。彼女は2015年に Bromyard Folk Festival で“The Future of Young Folk Award”という賞を受賞したという。Georgiaはイングランドを中心にスコットランドや北アイルランドのバラッドや伝統歌、加えて自作曲などをうたうが、そのシンギングたるや絶妙で、様々なタイプの唄を手玉に取るようにうたう。楽器はアコとホイッスルを演奏し、ダンスも。素晴らしいのは、バックを務める四太郎~Rowan Piggott {フィドル他}, Tom Sweeney {タブル}

-ス}, Evan Carson{ハウソウ他}, Felix Miller{ギター}~の演奏も。清新なトラッド・サウンドは、音楽だけでも美味。とりわけアイルランド人フィドラーの Rowan は音の引き出しが豊富で、フィドルがよくうたう。2017 作。Rootbeat)

*MARTIN SIMPSON:Trails & Tribulations B

(20 枚目にあたる Martin Simpson の新作。Martin 自身が「自然と旅と実生活の物語の唄のコレクション」と語る本作は、彼がこれまでレパートリーにしてきた英米両サイドのトラッドや SSW の唄をアコースティック・ギター、レズネイター・ギター、ラップスティール・ギター、バンジョー{上手くなったなあ}、ウクレレなどを爪弾き、奏でて、一人のギター弾きのフォーク・シンガーに立ち戻って、煮込みに煮込んだ唄をじっくりと味わうようにうたう。これ以上の煮込み味は出せないと思えるほどの真に迫る静かな気迫と集中力ある唄とギターやバンジョー等の演奏だ。天下一品の神業。伴奏楽器のいぶし銀の多彩な音色を聞いているだけでも楽しい。w. Nancy Kerr, Andy Cutting, Ben Nicholls, Toby Kearney, John Smith, Helen Bell そして娘の Molly Simpson{ヴォーカル}。名盤誕生。2017 作。Topic)

*LEVERET:Inventions B

(Andy Cutting{アコ、キーボードイオン}に Full English の Rob Harbron{コンサティナ}そして Bellowhead, Eliza Carthy Band, Full English の Tom Sweeney{ヴァイオリン、ヴォーカル}から成る Leveret の待望の新作はスタジオ・ライブ録音盤。キャン！凄くイングランド的な気品とロマンティックさが音楽の根っこに感じられる、それも爽やかな風を肌を感じるような気持ちの良い音楽だ。それは Andy Cutting が 1990 年代初めに Chris Wood と組んで創作した音楽のような時を超えて人の心の深いところに忍び寄る音楽。曲目はモリス・ダンスの曲調だったり、トラッドの曲調だが、好きな散歩コースを曲にした曲や友達に捧げた曲や好きな曲からひらめいて作った曲等、風景が浮かぶような一曲一曲は、気流のように連なって躍り舞う。改めて Andy の演奏に耳を傾けると、そのリズム感の良さに心躍らされる。2017 作。Rootbeat)

*WOOD & CUTTING:Live At Sidmouth(1995 作。RUF) C

*CHRIS WOOD & ANDY CUTTING:Knock John(1999 作。RUF) C

*TWO DUOS QUARTET:Half As Happy As We C
(Andy Cutting, Chris Wood, Karen Tweed, Ian Carr の四人組。1999 作。RUF)

*TWEED&CUTTING:One Roof Under A

(Poozies~Swap のピアノ・アコーディオン奏者の Karen Tweed と Blowzabella~Wood&Cutting~Fernhill のアコーディオン奏者の Andy Cutting のアコーディオン・デュエット・アルバム。当時、Andy Cutting に恋をしていた Kate のアコは本当にウキウキしている。ゲスト:Ian Carr。天下一品。2002 作。Fasco)

*IAN CARR・KAREN TWEED:Fyace A

(Karen Tweed と Ian Carr のアコーディオンとギターのお遊び、楽しい会話そしてダンス。名人芸。97 作。Compass)

- *1651:Cast A Bell A
 (元 Pyewackett で June Tabor の音楽アドバイザー Mark Emerson の企画 {プレイフォードの“English Dancing Master”の曲の新たな蘇生} に Andy Cutting {アコ} と Tim Harries {ダブルベース} が協力したもの。素晴らしきプレイフォードの世界。2001 作。Beautiful Jo)
- *ROSIE HOOD:The Beautiful & The Actual B
 (The Dovetail Trio の Rosie Hood のソロ。本作に収録された伝統歌のほとんどは民謡収集家で詩人の Alfred Williams が収集した英国南部ウィルトシャー州の伝統歌。今咲いたばかりの花々のように色とりどりで、二、三、毒花も混じった初々しく美味な英国トラッド・アルバムだ。英国トラッドの心髄。w. Ollie King, Emily Portman, Emma Smith, Barber Sisters, Tom A Wright。2017 作。Rootbeat)
- *THE DOVETAIL TRIO:Wing Of Evening B
 (Rosie Hood {ヴォーカル}、Jamie Roberts {Gilmore & Roberts の Roberts/ヴォーカル、ギター}、Matt Quinn {コンサーティナ、ヴォーカル} の一姫二郎のイングランドのトラッド・ユニットの Dovetail Trio の清々しいデビュー作だ。三人の演唱は清々しく爽やかでありながら、イングランドのトラッドのシンギングとダンス音楽の美味なツボを体得しているかのように見事で、さらりと骨抜きにする。イングランドのトラッド界の金の卵。2015 作。Rootbeat)
- *GREG RUSSELL:Inclined To Be Red B
 (Greg Russell & Ciaran Algar のシンガー & ギター奏者の Greg のソロ。ブリティッシュ・フォークなキリッとしたギターの弾き語り を要にした Greg のシンギングの何と格調高いこと！ラウド・フォーク・コレクションからの伝統歌三曲や Dick Gaughan の名唱で知られる“The Star Of The County Down”の替え歌“Crooked Jack” {1978 年作の“Gaughan”収録} や自作の唄四曲などを、まるで、彼にとっては親の世代のブリティッシュ・フォーク & トラッドを切り拓いた巨匠シンガー達の精神に立ち返るほどの実直さで、うたい通している。身震いの傑作。w. Archie Churchill-Moss {アコ}、Tim Yates {ダブルベース}。2017 作。Fellside)
- *CIARAN ALGAR:The Final Waltz B
 (2013 年に BBC2 の“Young Folk Award”賞受賞の Greg Russell & Ciaran Algar の天才アイリッシュ・フィドラーの Ciaran のソロ・デビュー作。2015 作。Fellside)
- *BRAM TAYLOR:Jokers & Rogues A
 (光に照らされた新緑の葉っぱのような清々しい唄だ。本作が 10 枚目を数え、レコーディング・アーティストとしてヴェテラン・シンガーの B. Taylor の唄は、齢を重ね、逆に若々しい。Dylan の“I Shall Be Released”はアコースティック・ギターとエレキ・ギターを交えた伴奏で、70 年代フォークぽくどことなく Iain Matthews っぽくもある。美味ブリティッシュ・フォーク。2012 作。Fellside)
- *THE GIFT BAND:Live On Tour A
 (Norma Waterson, Eliza Carthy, Martin Carthy の親子に Phil Alexander, Aidan Curran, David Donnelly の Gift Band による 2010

- 年の Union Chapel でのライブ二枚組。Norma の豊富なレパートリーを中心に、トラッドと S S W 系フォークの垣根なく、母なる柔軟な音楽で聴き手を包み込む。全 17 トラック。2011 作。Scarlet)
- *ELIZA CARHY・TIM ERIKSEN: Bottle C
(本作は 2013 年の夏から 2015 年の一月の間に、Eliza Carthy と Tim Eriksen がデュオで行ったライブからの 13 トラック。本作は、副題 "A Game For Two Players" の通り、英米トラッドのゲームなのだ。Eliza はトラッド・シンガー & フィドラーとして、そのまま。そこに Tim がエレキギターをかき鳴らしたり、ギターやバンジョーを弾いて、渾身のシンギングで対抗する。そのシンギングたるや Eliza 以上に英国トラッド臭かったりする。二人とも +α のパワーを噴出している。Navigator。2015 作)
- *TOM McCONVILLE: Tommy On The Road B
(ヴェテラン・ミュージシャンの T. McConville の本作はノーサンバーランドとスコットランドの音楽を中心にアイリッシュを加えた唄とフィドルのアルバム。唄とフィドルはほぼ半々で、唄物は Ewan MacColl 作 "Jamie Foyers" Benny Gallagher 作 "Stay Young" や Steve Tilston 作 "Slip Jigs and Reels" 等、Tom の温厚なヴォーカルが心に沁みるちよっぴり懐古趣味的で滋味豊かな唄ばかり。a. Chris Newman, Aaron Jones, Shona Kipling, Damian O' Kane, David Newey。2010 作。Tomcat Music)
- *THE BALLADS OF CHILD MIGRATION A
(副題 "Songs For Britain's Child Migrants"。1869 年から 1970 年の間に、約 10 万人の英国人の子どもが親なしで海外に移住したという。その内の約 9 万人がカナダだったという。本作はフォーク/トラッドのミュージシャン達が移民していった子ども達の唄を作词作曲し、うたったもの。この企画に賛同したミュージシャンは、Chris While & Julie Matthews {4 曲}, Jez Lowe {4 曲}, John Doyle {1 曲}, Coope Boyes & Simpson {2 曲}, John McCusker {フィドル演奏。1 曲}, Boo Hewerdine {2 曲}, Belinda O' Hoolley & Heidi Tidow {2 曲}。w. Andy Cutting, Ian Carr, Michael McGoldric, etc. CD ブック型 CD。2015 作。Delphonic)
- *ROBIN DRANSFIELD: A Lighter Touch ¥2800
("Tidewave" と 1972 年の未発表音源ライブの二枚組。全 25 トラック"。2008 年。Hux)
- *BARRY DRANSFIELD: Be Your Own Man (1994 作。Rhiannon) D
- *STEELEYE SPAN: In Concert 2800
(Featuring Maddy Prior。未発表音源の CD と DVD セット。2002 作。Classic Rock Pro.)
- *CHRIS FOSTER: Traces (2003 作。Green Man) B
- *CHRIS FOSTER: Outsiders (2008 作。Green Man) B
- *CHRIS WOOD: So Much To Defend C
(全曲自作曲で占めた本作は、英国トラッドの香りを立たせていたこれまでの彼の音楽とは違って、唄が内面に向けられているというか、うたう心が素直な感じがする。二曲目 "This Love Won't Let You Fail" は、わが子が家を離れた両親の寂しさをうたった

唄だが、自身の優しいギターと Gary Walsh の優しいハモンドオルガンの音色とともに、胸にぐっとくる。全曲、内面からわき上がるものをそのままギターを爪弾き、うたったかのような唄は、祈りにも似た内なるパワーを感じずにはいられない。2017 作。RUF)

*NANCY KERR: Instar B

(Nancy Kerr&James Fagan の Nancy のソロ。The Full English や Murmurs ではトラッド・ミュージシャンとして活動する一方で、ソロはブリティッシュ・フォーク/SSW 路線を強く打ち出している。Sweet Bisitor Band{James Fagan, Rowan Rheingans, Greg Russell, Tom Wright, Tim Yeates}による英国トラッド~フォーク・ロックの範囲でとびっきりの英国サウンドのもと、Nancy は唄を輝かす。フォーク・ロックなのは Nancy with Albion Band っぽかったり。母となった Nancy の唄はしなやかでしたたか。2016 作。Little Dish)

*NANCY KERR & JAMES FAGAN: Twice Reflected Sun A

(北イングランドのトラッド・スタイルを保持した Nancy&James のシンギングとフィドル、ブラス、ギターの伴奏は本作においても快調。とりわけ Nancy の北イングランド流の凜としたシンギングは格別で、自作曲での豊かな詩情は、James の表現力豊かなブラスと Nancy の北イングランドの空気たっぷりな緩急自在なフィドルの伴奏と相まって、孤高の輝きを放っている。2010 作。Navigator)

*FAUSTUS: Faustus (2008 作。Navigator) A

*KATE RUSBY: Life In A Paper Boat B

(4 枚目のスタジオ録音盤。w. Nick Cooke, Steven Byrnes, Steven Iveson, Duncan Lyall, Mike McGoldrick ほか。2016 作。Pure)

*KATE RUSBY: The Frost Is All Over B

(Kate Rusby の 2015 年作のクリスマス・アルバム。ブックレットも隅から隅まで雪色。w. Aaron Jones, Cormac Byrne, Nick Cooke, Steven Byrnes, Steven Iveson, Duncan Lyall ほか。2015 作。Pure)

*MR. MARTIN SIMPSON & MR. DOM FLEMONS

: A Selection Of Ever Popular Favourites A

(2015 年の秋に Martin Simpson と Carolina Chocolate Drops の創設メンバーでアメリカン・ソングスターの Dom Flemons がデュオを組んで、コンサートを行ったときのライヴ。曲目は米国の白人黒人の枠を超えた古き良き音楽。Martin ファンが聴けば、Martin の米国趣味の音楽に大衆性が増したように聞こえて、面白いだろうし、Dom Flemons のファンが聴けば、米国庶民の古き良き娯楽音楽に品性が備わったように感じられて、新鮮な印象を持つだろう。米英の個性派が混ざり合って、ある種異種交配的な面白さもある米国の古き大衆音楽の世界だ。2016 作。Fledg'ling)

*MARRY WATERSON AND DAVID A. JAYCOCK: Two Wolves B

(Waterson ファミリーの Marry の本作は、彼女が追い求めてきた 70 年代ブリティッシュ・フォーク風フォークを極めたあの時代の空気感をピュアに保持した信じられないほど心ときめく音楽。その空気感を演出するのはギタリストの David A. Jaycock の魔法的に美しいアコースティック・ギターの響き。w. Kami Thompson, Neill

MacColl, Kate St. John, Simon Edwards. 2016 作。One Little Indian)

*MARRY WATERSON & OLIVER KNIGHT:Hidden A
(Waterson ファミリーの子世代の Marry&Oliver の本作は、Oliver の、まるでギターのアコースティック&エレキ・ギターをフィーチャーした夢模様のブリティッシュ・フォーク・サウンドの中、Marry は彼女ならではの独特な唄の世界を創作している。w. Eliza Carthy, Miranda Sykes, Barry Coope, Jim Boyes, Lester Simpson, etc. 2012 作。Little Indian)

*CROWS:Time To Rise! B
(Crows は 1977 年から 1987 年まで活動したイングランドを代表するトラッド・グループで、メンバーは Mick Ryan, John Burge, James Patterson, Ralph Jordan の四名。1981 年に“Crows”、1986 年に“No Bones Or Grease”の二枚のアルバムを発表。本作は一枚目から 6 曲、二枚目から 2 曲に加えて、1982 年と 1983 年にラジオ番組のために収録した未発表音源から 8 曲を加えた新譜。2016 作。WildGoose)

*JIM CAUSLEY:Forgotten Kingdom C
(Jim Causley の五枚目に当る本作は、4 世紀から 8 世紀にイングランド西南部を支配していたケルト王国ダムノニアを夢想して制作されたもの。w. Jackie Oates, Phil Beer, Steve Knightley, Miranda Sykes, Rex Preston, Phillip Henry, Hannah Martin, James Dumbelton, Seth Lakeman, Steve Tyler, Katy Marchant, Lukas Drinkwater, The Claque, Ninebarrow, Mark Bazeley, Kathryn Roberts, Nick Wyke & Becki Driscoll, Reese Wesson, Chris Hoban & Old Uncle Tom Cobley. 2016 作。Hands On Music)

*ANGE HARDY:Esteese B
(Ange Hardy の新作は英国のロマン派の詩人サミュエル・テイラー・コールリッジ {1772 年-1834 年} の詩にインスピレーションを得て創作されたフォーク・アルバム。ブリティッシュ・トラッド/フォークの真の優美さを表出していて、独自のイングランド版的夢想浪漫世界を創出して素晴らしい。w. Steve Knightley, Patsy Reid 他。P28 のブックレット付。2015 作。Story)

*PETE MORTON:The Land Of Time A
(Pete Morton のようなトラッドとフォークの両要素を保持し、社会的な唄やラヴ・ソングやウイットの利いた唄などの自作曲を様々な曲調で自由にうたうフォーク・シンガーが昨今少なくなったが、久々に聴く Pete Morton の唄は、まるで広い大地に立って、遠く彼方をみやってうたっているかのように、唄が健やかでたくましい。英国フォークの伝統に根ざした「アナログ」な唄の数々だ。w. Linda Adams, Chris Parkinson, Jon Brindley, Giaran Algar, James Budden. 2015 作。Fellside)

*FOLK AWARDS 2010 a
(2010 年 BBC Radio2 のフォーク賞各部門にノミネートされたシンガー/グループ {Cara Dillon, Show Of Hands, Unthanks, Maukin:Causley, Martin Simpson, Hannah James&Sam Sweeney, Bellowhead, Jackie Oates, Lau, John Kirkpatrick, Jon Boden, Megson 他} の 2 枚組 CD。全 22 ト

- ラック。2008 作。Proper)
- *PETE COE: In Paper Houses (2004 作。Backshift) C
- *DAVID ROTHERAY' S "The Life Of Birds" A
(David Rotheray の作曲曲を主にイングランドのトラッド/フォーク系シンガーがうたうシリーズの第一作目。Eliza Carthy, Bella Hardy, Kathryn Williams, Alasdair Roberts, Julie Murphy, Jim Causley, Eleanor McEvoy, Camille O' Sullivan, Jack L, Nat Johnson。全 14トラック。2010 年。Proper)
- *YOUNG TRADITION: Oberlin 1968 B
(Young Tradition [Peter Bellamy, Royston Wood, Heather Wood] の 1968 年 11 月 17 日、米国の Oberlin College で行われたライブ。イングランドのトラッド・ファンなら冷静には聴けない見事なアカペラによるトラッド・シンキング・アルバム。三人のシンキングは極めてスティック。そのスティックさが音楽的にイングランド的の気品を生み、伝統歌の質をピュアに高めている。Peter Bellamy のシンキングのみならず、Royston も Heather もオーラを放つほどに見事なシンキングを高く貫いている。滅茶苦茶素晴らしい。アカペラによるイングランドのトラッド・シンキングの原点であり、一つの理想型。全 25 曲。1968/2013 作。Fledg' ling)
- *PAUL DOWNES: The Boatman' s Cure B
(Paul Downes を初めて知ったのはフォーク・ロック・バンドの Arizona Smoke Revue だった。彼がレコーディングに関わったアルバムは約 250 枚もあるという。本作はソロ・アルバムとしては五枚目。"Farewell Nancy" 等のトラッドと Mick Ryan, Harvey Andrews 等のフォーク系 SSW のメンバーが半々の本作は、Paul の人情派? 熟練フォーク・シンガーとしての味わいがじっくり味わえる一枚になっている。w. Maggie Boyle, Jackie Oates, Phil Beer, Keith Kendrick, Gill Redmond。全 12トラック。2013 作。WildGoose)
- *CYRIL TAWNEY: Man Of Honour B
(1997 年のサット・アルバムがめでたく CD 再発。本作はフォーク・シンガーの Cyril が自作曲 14 曲を 1995 年~1997 年にギターの弾き語りを中心に収録したアルバム。副題を付けるとすれば「酒と女と海」だろうか。この副題だと、トム・ウエイを思い浮かべそうだが、中身は真逆。Cyril の「酒と女と海」は、暖炉のある暖かな部屋で、昔の思い出を偲ぶ感じで、終始穏やかペース。ゲスト: Chris While。1997 年/2012 年。Talking Elephant)
- *JOHN KIRKPATRICK: The Dance Of The Demon Daffodils A
(2010 年 BBC2 "Folk Awards" の "Musician Of The Year" 入賞作。2009 作。Fledg' ling)
- *THE FLYNN BROTHERS: The Flynn Brothers ¥2500
(Produced by Martin Carthy。推薦文: Davy Graham。1991 作。Annadale)
- *THE YOUNG' UNS: When Our Grandfathers Said No A
(本作が 4 枚目のイングランド北東部出身の男性ヴァーカル・トリオ。メンバーは Sean Cooney {ヴァーカル}, David Eagle {ヴァーカル、キーボード、アコ}, Michael Hughes {ヴァーカル、ギター}。「今日のフォーク・シーンで、最も人気のある面白い奴らだ」とは Jez Lowe。2012 作。Navigator)
- *PETER BELLAMY: Merlyn' s Isle Of Gramarye A
(Rudyard Kipling の本 "Puck of Pooks Hill" と "Rewards And

- Fairies”からの Rudyard Kiplingソング集第二段。Rudyard の唄をトラッドのフォームで演唱した本作は P. Bellamy の入魂のシンキング 他イングランド産トラッド・アルバムの名盤。ゲスト: Nic Jones, Dolly Collins, Dave Arthur, Dik Cadbury, etc. 72/2011 作。Talking Elephant)
- *PETER BELLAMY: Oak, Ash And Thorn A
(Rudyard Kipling の本”Puck of Pooks Hill”と”Rewards And Fairies”からの Rudyard Kiplingソング集第一段。Rudyard の唄をトラッドのフォームで演唱した本作は P. Bellamy の入魂のシンキング 他イングランド産トラッド・アルバムの名盤。ゲスト: Royston Wood, Heather Wood, Barry Dransfield, Robin Dransfield. 70/2011 作。Talking Elephant)
- *WHEELER STREET: Live B
(Wheeler Street は、紅一点の Sophy Blundell がヴォーカルのフォーク・フェスやライブで人気急上昇中のケントの若者 7 人組トラッド・バンド。アイルिशのノリと楽しさ、フォーク・ロックのノリと醍醐味そしてトラッド・シンキングの清澄さ等、彼らは彼らの柔らかい感性にフィットしたトラッドをあの手この手で若々しく、エネルギッシュに演唱する。Great! 2011 作。Stump Nugget)
- *HOME SERVICE: Live 1986 A
(メンバーは John Tams {リード・ヴォーカル}, Howard Evans, Graeme Taylor, Roger Williams, Howard Evans, Steve King, Andy Findow。フォーク・ロック・バンドの横綱”Home Service”の 1986 年のライブ。場所はケンブリッジ・フォーク・フェスティバル。このライブは素晴らしい。John Tams のヴォーカルは威風堂々とし、バンドのサウンドは揺るぎがなく重厚。文句の言いようのない Home Service らしい怖れ知らずのフォーク・ロックのオンパレード。2011 作。Fledg’ling)
- *MIDWINTER ¥6900
(副題”A Celebration Of The Folk Music & Traditions Of Christmas & The Turning Of The Year”。P156 の解説本付 4 枚組ボックスセット。イングランドの著名フォーク&トラッド・シンガー大集合。クリスマス期音楽の集大成。2006 作。Free Reed)
- *VICKI SWAN & JONNY DYER: Stones On The Ground A
(「フォーク・ソング」というのは石ころのようなものという Vicki&Jonny の本作はイングランドのトラッドと Vicki の母親の故郷スウェーデンのトラッドに Johnny のオリジナル曲を加えた作品。英国調とスウェーデン調の見事なトラッド・アルバムだ。2011 作。WildGoose)
- *VICKI SWAN・JONNY DYER: Gleowien (2009 作。WildGoose) A
- *ELIZA CARTHY: Neptune B
(フォーク・スタイルのアカペラからミュージック・ホールの音楽、醍醐味あるフォーク・ロック、ユーモラスな音楽、エレガントな音楽、トピカルな音楽、ノスタルジックな音楽などまるで色んな音楽が飛び出す唄のヴァリエーションを観るような印象。そんな音楽を Eliza は各唄の主人公になり、演技するように意気揚々とうたっている。w. Phil Alexander, Willy Molleson, Bethany Porter, Emma Smith, Heather MacLeod. 2011 作。Hem Hem)
- *KATRIONA GILMORE & JAMIE ROBERTS: Up From The Deep C
(二人のイングランド・スタイルの音楽は新たな生命力を持ち、すこぶる魅力的なフォーク&トラッドを創作している。2010 作。GR!)
- *KATRIONA GILMORE & JAMIE ROBERTS: Shadows & Half Light B

(Jamie の理知的で思索的で、英国的陰影に富むヴォーカルと Katriona の涼やかなヴォーカルが魅力。理想のブリティッシュ・フォーク。2008 作。Gilmore Roberts)

- *TYDE: Tyde B
(注目の北イングランドの若きトリオ。メンバーは紅一点のシンガーでフィドル奏者の Heather Gessey、ギター奏者の Seth Tinsley そしてアコ奏者の Andrew Waite。三人は若いながら、アイルッシュ、スコティッシュ、ノースブリタンなどの曲をヴェテラン・セッション・ミュージシャン並に演奏し、驚かせる一方で、紅一点の Heather はノースブリタンの伝統音楽への傾倒が色濃いフィドルの演奏とシンキングで花を添えている。2010 作。Mrs Carsy)
- *MEGSON: The Longshot A
(イングランドのベスト・フォーク・デュオとして評判の Debbie&Stu Hanna の二人組 "Megson" の本作は新旧の労働者の暮らしにまつわる唄を集めたアルバムで伝統歌と自作曲がほぼ半々。特筆すべきはイングランドの薫りに充ちた二人のヴォーカル・ハーモニーの見事さ。2010 作。EDJ)
- *MEGSON: Take Yourself a Wife A
(イングランド北東部の伝統音楽に根ざしたフォーク・デュオの 2 枚目。2008 作。EDJ)
- *MICK RYAN & PAUL DOWNES: Away In The West A
(Mick Ryan との付き合いも Mick Ryan&John Burge からだからもう 32 年。Mick の力強く、かつ伸びやかなシンキングは今が旬と思えるほど勢いがある。その勢いは彼のまろやかなシンキングとともに美しい唄をさらに美しい唄にもしている。これぞトラッド・シンキングの見本と言いたいほどだ。聴き惚れてばかり。w. Jackie Oates, Paul Hutchinson。全 14 曲。2010 作。WildGoose)
- *JOHN JONES: Rising Road C
(Oysterband のヴォーカルの J. Jones の徹底してイングランド気質の気骨ある唄。w. Seth Lakeman, Benji Kirkpatrick, Ian Kearny, Alan Prosser, etc. 2009 作。トイWestpark)
- *LIZZIE NUNNERY: Company Of Ghosts A
(2008 年 BBCラジオの "Best Newcomer" 賞優勝の若き女性 SSW のファーストアルバム。Lizzie の唄は独特で、夢見る少女のような遊び心があって、何とも愛らしく聴き手の心を弾ませる。独特なのは本人とプロデュサーの Vidar の二人ともが爪弾くウレルとギターで、木漏れ日の心地よさというか、肌触りのよい手作りな響きが何とも何とも快い。2010 作。Fellside)
- *CHRIS WOOD: Handmade Life B
(現在 Imagined Village で活動中で、イングランドを代表するトラッド・シンガーに成長した C. Wood の 2010 作。珠玉のブリティッシュ・トラッド / フォーク・アルバム。2010 作。RUF)
- *PETE MORTON・ROGER WILSON・SIMON EDWARDS
: Urban Folk Vol. 2 B
(Urban Folk Vol. 1 とセットの 2 枚組。全 24 曲。97 作。Harbourtown)
- *IAN KING: Panic Grass & Fever Few B
(Shirley Collins が「This is English folk music for the 21st century!」と言ったという期待の新星。"Adieu To Old England",

- “Death and The Lady”他全13曲。2010作。Fledgling)
- *DAMIEN BARBER・MIKE WILSON:Under The Influence A
 (2010年BBC2“Folk Awards”の“Best Duo”入賞。70年代の英国トラッド・ファンへの推薦盤。DamienとMikeはDamienが奏でるコンサーティーナやギターが英国トラッドの土臭さを立てる中、Peter BellamyやDick GaughanやEwan MacColl等のアルバムで覚えた唄を当時の彼らのシンキングの気概をそのままエッセンスとして、奮起して毅然とシンキングする。ジャケットは70年代のLPジャケット風。2009作。Demon Barber Sounds)
- *ROGER WATSON:Past And Present A
 (Muckram Wakes、New Victory Bandを経て、トラッド・シンガー兼ジャズ奏者としてソロ活動の道を進むウェランのR. Watsonの本作は、何とも心安らぐトラッド・シンキングとダンスの楽しさを保持した心身を芯からほぐしてくれる唄と音楽。滋味豊かなイングランドの香り漂う唄と音楽。w. Jackie Oates&Tim Walker。2009作。WildGoose)
- *BELSHAZZAR'S FEAST:Frost Bites A
 (2010年BBC2“Folk Awards”の“Best Duo”入賞。イングランドのトラッド界の二匹の若獅子 Paul Sartin[ヴォーカル、フィドル、オーボエ]と Tom Paul Hutchinson[アコ]によるクリスマス音楽。2009作。WildGoose)
- *BELSHAZZAR'S FEAST:The Food Of Love B
 (スタジオ録音とライブ録音の2枚組。本作は正に極上のイングランドのダンス音楽とトラッド・シンキング・アルバム。二人が奏でる音楽はイングランドのダンス曲の風合いをキープしつつ、他のモス・ダンス・タイプの有名どころとは気高さや優雅さで上を行っている。2008作。WildGoose)
- *DARWIN SONG PROJECT - Shrewsbury 2009 B
 (フォーク・フェスティバルで企画されたスコットランド、イングランド、アメリカのトラッド・シンガーやSSWによるユニークなコラボレーション。ライブ・アルバム。メンバーは8名。Chris Wood, Karine Polwart, Jez Lowe, Emily Smith, Krisa Detor, Rachael McShane, Mark Erelli。一人から四人のグループで、一曲一曲をコラボする。最後は8人全員でシンキングの競演で幕。全17曲。2009作。Shrewsbury Folk Festival)
- *JON BODEN:Songs From The Floodplain B
 (2010年BBC2“Folk Awards”の“Best Singer Of The Year”入賞。P34の写真・歌詞ブックレットの限定盤。本作はトラッドのモチーフを借用した自作の唄が中心で、ギター、コンサーティーナ、モーテイオン、ドラムス、バグパイプなどの英国トラッド臭わき立つ中、持ち前の威風堂々たるシンキングで釘付けにする。徹頭徹尾Jonらしさが煮詰められたイングランドの気品と香り立つ傑作。2009作。Navigator)
- *BELLOWHEAD:Matachin B
 (2010年BBC2“Folk Awards”の“Best Group”入賞。P32のブックレット付デラックス・エディション限定盤を販売。イングランドのトラッド・シーンの若獅子達11名によるスーパー・トラッド・バンドの2枚目。Jon Boden&John SpiersとFaustusのBenji KirkpatrickとPaul Sartinを中心に外堀を管楽器やバグパイプやパーカッションで固めたお祭りバンド。イングランドのトラッドの可能性を大きく押し広げる頼もしい演唱の数々だ。2008作。Navigator)
- *SPIERS & BODEN:Vagabond B

(Spiers&Boden の本作は一瞬たりとも耳が話せないまさに感電死級のイングリッシュ・スタイルのトラッド音楽でリス音楽を含めたかれこれ40年のイングランドのトラッド音楽の金字塔的傑作。蛇足ながら、6トラック目で“Mary Anne”をうたってるのだが、実はこの唄はSSWのShep Cookeが彼の2枚目でうたっていて、聴いていると私の頭の中でShepのうたが重なって流れてくる。2008作。Navigator)

- *UISCEDWR:Fish Cat Door C
(オリジナル・メンバーのAnna Esslemont{ヴォーカル、フィドル}&Cormac Byrne{パウロ、パーカッション}にKaren Tweed{アコ}とJames Hickman{ギター}が加わったUiscedwrの2009作。フィドルとアコとパウロとギターの妙技が冴えて、最高にグルヴィーなダンス曲を繰り広げる。数曲で聴けるAnna嬢のヴォーカルは純情無垢な可愛らしさ。2009作。Yukka)
- *FOLK FOR MS “Generosity” A
(20年の活動暦というFfMS{Folk For MS}支援のための編集CD。Jez Lowe, Barry Dransfield, Pete Coe, Dave Burland, Harvey Andrews, Roger Watson, Tom & Barbara Brown, Askew Sisters, Johnny Coppin, Vin Garbutt, Huw&Tony Williams, Cosmotheke, Roy Bailey & John Kirkpatrick, Artisan, Cockersdale, Mike Nicholson 他提供による全20トラック。2009作。WildGoose)
- *MAWKIN・CAUSLEY:The Awkward Recruit B
(2010年BBC2“Folk Awards”の“Best Group”入賞。James and David Delarre, Danny Crump, Alex Goldsmithの4人組Mawkinに、今イングランドの若手トラッド・シンガーの中で、今最も伝統歌の心がうたえると評判のJim Causley{Under One Sky/Devil's Interval}が加わった、今最も華のあるトラッド・グループ。Jon&John的なイングリッシュ・スタイルのトラッドのコアに向かうトラッドで歓喜させ、ヴォーカルを中心にグループとして多彩なイングリッシュ・スタイルのトラッドで心遊ばせる。今が旬。2009作。Navigator)
- *MOULTON MORRIS MEN:Where The Pavement Ends A
(1972年に結成されたリス・ダンス・バンドの1979年制作のアルバム{Dave Pegg&Simon Nicolのプロデュース}に4曲のボーナス・トラック加えて再発。全20トラック。当時Melody Maker誌のフォーク・チャート1位。メンバーはSimon Care, Gareth Turner, Guy Fletcher, Dave Jolly, Gareth Warrenで、その後リス音楽の分野、特に革新的分野で大活躍するツモノ楸い。ライブ感たっぷり、リス音楽の楽しさと醍醐味をたっぷり聴かせるリス音楽の名作。2009作。Talking Elephant)
- *ANDY MAY:Happy Hours A
(Jez Lowe Bandのメンバーで若手ノック・リアン・ハイパーの筆頭格のA. Mayの本作はまさに空を羽ばたく勢い。一曲一曲に彼の思い入れが込められた様々な表情のライブ演奏が楽しめる。2009作。Fellside)
- *JIM MORAY:Jim Morray A
(2003年作のデビュー作は“Liege&Lief”以来の最重要作」と評価され話題を呼んだが、前作同様オチ趣味に徹したJimにしか創作出来ないJim印の耽美なイングランドのトラッドの世界。“全てが夢の中”。病み付き保証。2006作。Niblik)
- *THE NAVVY'S WIFE D
(2枚組。「人夫の妻」と題された本作は、アイルランド系イリス人トラッド・シン

- がの Mick Ryan によるフォーク・ドラマ。イギリスで鉄道や運河や道路の建設に携わったアイルランド移民の苦難や悲哀や希望や楽しみや喜びをアイルッシュやイングリッシュ・トラッドのスタイルでうたい、音楽を付けた大作。本作に参加したシンガーは M. Ryan, Jackie Oates, Paul Downes, Judy Dunlop, Heather Bradford, Roger Watson。2008 作。WildGoose)
- *THE MARTIN GREEN MACHINE "First Sighting" B
(Lau のアコ奏者 Martin Green のやりたい放題の実験音楽。ポークリスな彼の音楽性からある程度想像していたが、やはりジャンル分け困難な実験的でユーモラスでお遊び感覚のクロスオーバー音楽。色彩感豊かで、遊園地音楽とも言いたい音楽。彼はほつま遊び好きやな。子どものままの感性の音楽家。w. Inge Thomson, Barnaby Stradling, Tom Cook, etc. 2009 作。Navigator)
- *GRAHAM & SAM PIRT: Dance Ti' Thee Daddy A
(母親の膝の上で覚えたという伝承歌などのノサンバランドのトラッドやそこで出逢ったトラッドなどを中心にした唄や音楽を父息子の親子でコンサート&オーディションの伴奏で演唱したもの。シンギングは驚くほど丁寧で穏やか。時の流れから隔離されたようなイングランド東北地方の穏やかなトラッドの世界だ。2008 作。Fellside)
- *SIMON CARE: Oh What A Caper A
(イングランドのダンス音楽シーンで、イングランドを代表する百戦錬磨のモチオン奏者の編集 CD。Whapweasel, The Lark Rise Bnd, The Albion Christmas Band, Edward 11, The Morris On Band など全 15トラック。2008 作。Talking Elephant)
- *RUBUS: Rubas A
(Rubus は Emily Portman 嬢がリード・ヴォーカルのイングランドの若きトラッド・バンド。11 曲中 10 曲が伝統歌。Emily のシンギングは往年のイングランド女性のトラッド・シンガータイプ of 硬質で、凛として孤独感を漂わせる。音楽的には 70 年代風で、どこか Pentangle 的というか、雑多な音楽性を持っていて、独特な暗さと土臭さのあるイングランドのトラッド・サウンドを体現している。2008 作。WildGoose)
- *ELIZA CARTHY: Dreams Of Breathing Underwater A
(ライヴの空想的な夢音楽。w. Jon Boden, John Spiers, Martin Green, Eddie Reader, etc. 2008 作。Topic)
- *FAUSTUS: Faustus B
(Bellowhead の Benji Kirkpatrick {ヴォーカル、ギター、ベース} & Paul Sartin {ヴォーカル、フィドル、オボエ} に Eliza Carthy の相棒で Waterson Carthy でイングランドのベストモチオン奏者の Saul Rose から成る新生 Faustus の 2008 作。Navigator)
- *BENJI KIRKPATRICK: Boomerang B
(John Kirkpatrick の息子で Bellowhead, Faustus の Benji のソロ。1 曲を除き全曲 Benji のオリジナルで占められた本作は Bellowhead でのパワーをそのまま自身のソロに注入したような気骨あるブリティッシュ調 SSW アルバム。John Kirkpatrick & Sue Harris のご両親もバックアップ。2008 作。Navigator)
- *BENJI KIRKPATRICK: Half A Fruit Pie (2004 作。Fellside) A
- *THE MAERLOCK: Sofa A

- (Royal Northern College Of Music で出会って結成された女性 2 名と男性 3 名の若きトラッド・グループのデビュー作。Lau の Aidan O'Rourke が「独創的で力強いアンサンブル・サウンド」と評。2008 作。Fellside)
- *LEON ROSSELSON:Turning Silence Into Song A
(Leon 氏の社会風刺や機知に飛んだ唄は老いてもなおかくしゃくとしてハツラツ。そんな自由な唄を Martin Carthy がご機嫌なギターで踊るようにバック・アップする。聴き手を笑わせながら、社会の不条理を説く Leon のようなシガ - はそうはいない。w. Frankie Armstrong, Miranda Sykes, Robb Johnson, Jody Stecher, etc. 2004 作。Fuse)
- *COOPE, BOYES AND SIMPSON:Triple Echo C
(副題“Songs Collected by Ralph Vaughan Williams, George Butterworth and Percy Grainger”。約 100 年前のフォーク・ソングの収集家の 3 名のコレクションから 17 曲をアカラ・トリアの CB&S がイングランド・スタイルのシギングの薫り高く毅然とうたったもの。“Bushes And Briars”や“Lovely On The Water”ほか。2005 作。No Masters)
- *ARTISAN:Searching For Yorladale C
(副題“Songs Of The Yorkshire Dales From The Words Of Yorkshire Poet, Dorothy Una Ratcliffe, With Music By Brian Bedford”。1988 作。Bedspring Music)
- *ARTISAN:Live C
(2002 年アメリカの WFMT Radio でのライヴ。30トラック。2005 作。Bedspring Music)
- *VIVIEN ELLIS:The Dawn Songs A
(中世音楽とトラッドの両方に造詣が深い Vivien は Alva 時代同様本作でもスコットランド民謡、アイルランド民謡、中世音楽、アラリア民謡、宗教歌に加えてサンバ・スタイルの 15 世紀イェリア起源の唄やブルガリア民謡等を極力素朴な美しさを追い求めたかのような凜とした清涼なヴォイスとブルガリア民謡等その民謡固有の味わいを強くしたヴォイスとで唄の世界を旅するように唄う。2006 作。Beautiful Jo)
- *MAGPIE LANE:Knock At The Knocker, Ring At The Bell A
(副題“Carols, Songs & Tunes For The Christmas Season”。Andy Turner, Ian Giles, Marguerite Hutchinson, Mat Green, Sophie Polhill に Benji Kirkpatrick に代わり新加入のギター&ベース&ヴォーカルの Jon Fletcher から成るイングリッシュ・トラッド・シギング&ダンス・バンドの Magpie によるイングランド産トラッド・アルバムとしてまたクリスマス期の唄と音楽のアルバムとして金字塔的名盤。2007 作。Beautiful Jo)
- *MAGPIE LANE:Six For Gold(2002 作。Beautiful Jo) B
- *KATHRYN TICKELL BAND:Instrumental C
(Kathryn のノサン・リアン・スモール・イフスとフィドルが滅茶苦茶見事な飛びつきりの 2007 作。Band としての前作も素晴らしかったが、本作もパイプの鮮やかさと表現力の豊かさと多彩さに満ちた音楽に心躍られる。2007 作。Park)
- *KATHRYN TICKELL+CORRINA HEWAT:The Sky Didn't Fall C
(ノサン・リアン・スモール・イフス&フィドルの K. Tickell と先進的ハープの Corrina のデュエットはスコットランドとノサン・ランドの伝統回帰かつ女性的優美さに包まれた音楽。二人は思い出の曲や馴染み深い曲を慈しむよう

- に演奏し、唄う。2006 作。Park)
- *THE RADIO BALLADS "The Song of Steel" B
 (1950 年代に Ewan MacColl と Charles Parker のプロデュースで BBCラジオ
 で放送された"Radio Ballad"シリーズの 2006 年版"Radio Ballad"。
 副題"Stories Of The Men And Women Who Worked In The Steel
 Industry In The Don Valley"。2007 作。Gott Discs)
- *THE RADIO BALLADS "Thirty Years Of Conflict" B
 (1950 年代に Ewan MacColl と Charles Parker のプロデュースで BBCラジオ
 で放送された"Radio Ballad"シリーズの 2006 年版"Radio Ballad"。
 副題"Stories From Three Decades Of Sectarian Conflict In
 Northern Ireland"。Tommy Sands, Karine Polwart, Julie Mathews
 , Jez Lowe 等による 10 曲。2006 作。Gott Discs)
- *THE RADIO BALLADS "The Ballad Of The Big Ships" B
 (1950 年代に Ewan MacColl と Charles Parker のプロデュースで BBCラジオ
 で放送された"Radio Ballad"シリーズの 2006 年版"Radio Ballad"。
 副題"Stories From The Shipbuilders Of The Tyne And The
 Clyde"。John Tams, Karine Polwart, Jez Lowe 等による 14 曲。2006
 作。Gott Discs)
- *NIC JONES:Penguin Eggs(不滅名盤。80 作。Topic) A
 *NIC JONES:Game Set Match A
 (Martin Carthy, Shirley Collins, Martin Simpson 等の音源提供で
 完成した N. Jones の 70 年代後半のライヴを収録した CD。全 15 曲。
 2006 作。Topic)
- *BOB FOX:The Blast(2006 作。Topic) A
 *BOB FOX:Dreams Never Leave You A
 (ヴェテラン・トラッド・シンガー、B. Fox の本作は、何と Fairport がバックを固め
 た瑞々しいもの。Bob 自身 Fairport とのりのよい付き合いを楽しむ
 かのように伸びやかな唄を披露する。2000 作。Woodworm)
- *SIMON MAYOR&HILARY JAMES:Duos B
 (魅惑の個性的なトラッド・シンガー、Hilary とマントリン音楽の道を探求する
 Simon のそれぞれの魅力が半々収められたライヴ集。録音は 1999~
 2000 年。2001 作。Acoustics)
- *SOD' S OPERA:Come On Lads... B
 (副題"Canteen Songs Of World War Two"。95 作。Beautiful Jo)
- *ROUND CAPE HORN A
 (副題"Traditional Songs Of Sailors, Ships And The Sea"。Ewan
 MacColl, Frankie Armstrong, A. L. Lloyd, Peter Bellamy, Cyril
 Twaney, Watersons, Mike Waterson, Roy Harris, Louis Killen。98
 作。Topic)
- *JOHN KIRKPATRICK:Carolling&Crumpets C
 (J. Kirpatrick の各種ジヤバラの奏き語りクリスマス・アルバム。2006 作。
 Fledg'ling)
- *JOHN KIRKPATRICK・CHRIS PARKINSON:
 The Sultans Of Squeeze B
 (ジヤバラの巨人お二人によるジヤバラ二重奏ハートイ！2005 作。
 Fledg'ling)

- *JOHN KIRKPATRICK:Orlando's Return B
 (副題"53 English Traditional Tunes"。メロデーオン、コンサティーナ、アコーデ
 ーションによるダンス曲集。息子 Benji のギター&ブズーキでサポート。2000/2003
 作。Molly)
- *JOHN KIRKPATRICK:Carrick's Delight B
 (副題"48 English Traditional Tunes"。メロデーオン、コンサティーナ、アコーデ
 ーションによるダンス曲集。息子 Benji のギター&ブズーキでサポート。2000/2003
 作。Molly)
- *GRAHAM METCALFE
 :Songs From Yorkshire And Other Civilisations A
 (1996年作がCD再発。Dave Burlandの名作"The Dalesman's Litany"
 {偶然にも1曲目で"Dalesman's..."を取り上げているが}を想起
 させる見事な無伴奏トラッド・シンキングの世界だ。正にトラッド・シンキング
 の真髄。全14曲。96/2005作。WildGoose)
- *ABBIE LATHE:Avebury (2003作。Park) C
- *SHINING BRIGHT A
 ("The Songs Of Lal&Mike Waterson"。Performed by Maddy Prior,
 Norma Waterson, Eliza Carthy, Richard Thompson, Linda&Teddy
 Thompson, Blue Murder, Dick Gaughan, Helen Watson, Billy Bragg,
 Martin Carthy, Christy Moore, Christine Collister&Oliver
 Knight, etc. 2002作。Topic)
- *ALONG THE COALY TYNE "Old And New Northumbrian Songs" A
 (全22曲。Louis Killen, Johnny Handle, Tom Gilfellon, Colin Ross,
 Alistair Anderson。98作。Topic)
- *LYRA CELTICA:Lyra Celtica C
 (ノサンパランドのトリオ。ムハは元JSD BandのフイドラーのChuck Fleming
 に"Young Traditional Musician Of The Year"賞受賞者の名アコ奏
 者のLynn Tockerにハウ他名打楽器奏者のFrank McGuire。Lyraの
 緩急自在なアコを要にChuckとFrankがかぶさるスタイルでノサンパランド、
 アイルランド、スコットランドのトラッドを硬軟織り交ぜて楽しませる。2005作。
 Lyra Celtica)
- *JON LOOMES:Fearful Symmetry A
 (若きトラッド・シンガーでギター奏者のJonはイングランドのトラッド・ソングとダン
 スの伝統をばっちりキープした生え抜き。音楽性とギターのスタイルは多く
 の部分でMartin Carthyと重なるが若い分、勢いがある。w. Paul
 Scourfield{メロデーオン}, Michael Beeke{リコーダー、イングリッシュ・ハープス}
 , Philip G. Martin{ハーモニカ・ギター}。2005作。Fellside)
- *CROSS CURRENT:Momentum B
 (北イングランドからフレッシュ・デビューの女性3名と男性2名{出身地はイン
 グランド、ノサンパランド、アイルランド}の若き5人組。ハングョー、ギター、ブズー
 キ、フルト、フイドル、ウイオラによる演奏はイングランド、ノサンパランド、スコットランド、
 アイルランドの音楽がクロスしたフレッシュでグルーヴ感ある音楽。音楽の質も完
 成度も高い。加えて男女のシンキングも気高く清楚で模範的。2005作。
 CrossCurrent)
- *JOLLY JACK&FRIENDS:Rolling Down To Old Maui A
 (Steve Turner, Richard Grainger, Barry Skinner, Linda Adams,

- Patti Reid 他のトラッド・ヴァーカル・グループ。99 作。Fellside)
- *TICKLED PINK:Terpsichore Polyhymnia A
(Simon Care, Guy Fletcher, Bob Kay, Trevor Landen, Gerald Claridge, Mark Hutchinson のラインナップの最強のフォーク・ロック・バンド。2005 作。Talking Elephant)
- *WHAPWEASEL:Skirl Naked B
(98 年作の 1 枚目。5 人組で Dave Ainsley のメロディオンを中心にこじんまりとまとまったエレクトリック・カントリー・ダンス。3 枚目のショック後聴くと初々しく端正な印象。Old Swan と Tiger Moth の中間的。Produced by Rick Kemp。Whapweasel)
- *WHAPWEASEL:Burn B
(サクスの Fiona と Stuart が加入し 7 人組になった Whapweasel の限りなく 3 枚目に近い 2 枚目。何といてもアコが抜群！Produced by Rick Kemp。2000 作。Whapweasel)
- *WHAPWEASEL:Relentless B
(英国各地のフォーク・フェスで大人気の 8 人組エレクトリック・カントリー・ダンス・バンドの 3 枚目。2003 作。Whapweasel)
- *JACQUI McSHEE'S PENTANGLE:Passee Avant C
(メンバーは Jacqui McShee {ヴァーカル}, Gerry Conway {ドラムス}, Spencer Cozens {キーボード}, Alan Thomson {ベース}, Jerry Underwood {サクス}。ゲスト:John Gibling, Miles Bould。99 作。Park)
- *ED RENNIE:Narrative A
(一人ギター・シタールを爪弾き唄うトラッドの数々はとても自然。唄によっては Martin Garthy を想起させる味わいのものもあるが、Ed のシンキングには暖炉の温もりのようなものが感じられる。いい人のいい音楽だ。2004 作。Fellside)
- *HEKETY:Furze Cat A
(あの Crucible のメンバー 4 名のうち 3 名がメンバーのイングリッシュ・ダンス・バンドの Hekety のイングラント各地の勢いあるダンス曲のオンパレード。凄くカッコいい。2004 作。WildGoose)
- *WATERSON-CARTHY:Holy Heathens And The Old Green Man A
(クリスマス期のキャロルや伝承歌を中心に選曲された Norma&Eliza Waterasons, Martin Carthy, Tim Van Eyken の Waterason:Carthy のアルバム。ヴァーカル・グループ "Devil's Interval をゲストに迎え、めでたい日の健やかな合唱を中心にした Waterasons 家の伝統回帰のシンキング・アルバム。2006 作。Topic)
- *NORMA WATERSON:Norma Waterason A
(w. Eliza&Martin Carthy, Richard Thompson, Danny Thompson, Roger Swallow。96 作。Hannibal)
- *MARTIN CARTHY AND DAVE SWARBRICK A
:Both Ears And The Tail
(ご存知 1966 年 Nottingham の Folkus Folk Club でのライブ。Swarb が Fairport に加入する 69 年までの 3 年間 Martin&Dave で活動。ほとんどのメンバーは Martin の初期のアルバムに収録されているが、ここでは全曲編曲され直された形で即興性高く演奏されていて、臨場感

- 抜群。2001 作。Gadfly)
- *WATERSONS:The Definitive Collection ¥1880
(過去 30 年の Topic 収録の音盤からの 19 曲入編集 CD。2003 作。Highpoint)
- *ELIZA CARTHYNANCY KERR:Shape Of Scrape B
(今や伝説の Eliza&Nancy による 2nd。95 作。Mrs. Casey)
- *STEELEYE SPAN:Hark!The Village Wait(70 作。Shanachie) A
- *STEELEYE SPAN:Parcel Of Rogues(73 作。BGO) C
- *STEELEYE SPAN:Storm Force Ten(リマスター。77 作。BGO) C
- *STEELEYE SPAN:Sail On Silver B
(80 作。3 曲のボーナス・トラック{96 年のライヴ 2 曲と 97 年のライヴ 1 曲}付。Park)
- *STEELEYE SPAN:The Lark In The Morning A
(初期 Steeleye のアルバムからの 33 曲入編集 CD。2 枚組。Sanctuary)
- *STEELEYE SPAN:Individually & Collectively A
(Steeleye, Martin Carthy, Tim Hart, Maddy Prior の音源{1971&1972 年}からの編集盤。全 12 曲。2000 作。Edsel)
- *MADDY PRIOR:Changing Winds(リマスター。78 作。BGO) C
- *MADDY PRIOR&JUNE TABOR:Silly Sisters a
(宝物。76 作。Shanachie)
- *JUNE TABOR:A Cut Above(80 作。with Martin Simpson。Topic)a
- *JUNE TABOR:A Quiet Eye(99 作。Topic) a
- *PETER BELLAMY:Wake The Vaulted Echoes ¥2980
(マルチメディア機能付 3 枚組 CD。57 曲中 16 曲が未発表曲で、16 曲がレア曲。故 Peter Bellamy のあの魂のこもった心揺さぶられるシンキングが蘇る。マルチメディアでは、ライヴ・ビデオにインタビュー、おしゃべり、レクチャー等様々な角度から P. Bellamy が捧げる。20 世紀の大作。99 作。Free Reed)
- *THE HUSH:Dark To The Sky C
(Hedgehog Pie の Bob Fox と Jed Grimes を中心に結成された北イングランドのフォーク・グループ。2002 作。MWM)
- *SIMON HAWORTH:Taking Routes A
(心が真っ直ぐな純良フォーク&トラッド・シンガーの S. Haworth の Fellside からの 2 枚目。北イングランドの香り漂うフォーク〜トラッド・サウンドと印象にくっきりと残る美しい唄は深呼吸したいほど。w. Stewart Hardy {フィドルが良く唄う}, Steve Lawrence, Andy May {ノースフリアン・パッド いいなあ}, Terry Haworth, Rachel Unthank。2003 作。Fellside)
- *HARRY COX:The Bonny Labouring Boy D
(副題“Traditional Songs&Tunes from a Norfolk from Worker”。ノフォークの偉大なトラッド・シンガーの 45 年から 70 年の未発表曲集。2 枚組。P60 の解説書付。英国民衆歌の遺産。2000 作。Topic)
- *THE MUSIC OF WILLIAM KIMBER B
(20 世紀を代表するイングランドのコンサート奏者&リス・ダンサー W. Kimber {1872-1961} の未発表曲を多数含む 32 曲入マルチメディア機能付編集 CD。2 冊の解説書付でマルチメディアには 45 枚の写真とフィルムやイラスト等多数が収録されている。99 作。EFDSS)
- *WALTER PARDON:A World Without Horses A

(イングランドを代表するトラッド・シンガーの一人。74-80年にW. Pardonの自宅で録音されたもので、イングランドの有名トラッド曲を多く含む全20曲。詳細解説付。2000作。Topic)

*THE HIGH LEVEL RANTERS: Gateshead Revisited a
(CD-R。90作。メンバーは Johnny Handle, Colin Ross, Jim Hall の3名。ここでのHLRの唄と演奏は、より大衆的なもの。ノースハンプトン・スモール・パブの心に響く曲やコミカルな唄など、より北イングランドの人々の心を豊かにするもの。フォーク・ミュージックの原点。90/99作。Common Ground)